

# 第3章

## 地域子育て支援の実際

1. すみれ第二保育園（茨城県 水戸市）
2. ことぶき乳児保育園（埼玉県 熊谷市）
3. 双葉保育園（神奈川県 逗子市）
4. 勝山保育園（山口県 下関市）
5. わかば保育園（富山県 富山市）
6. よしたけ保育園（石川県 小松市）
7. 双葉保育園（広島県 北広島町）
8. 山東保育園（熊本県 植木町）

# すみれ第二保育園（茨城県 水戸市）

## 1. テーマ

子育て支援における一時保育の役割

## 2. 保育園名

社会福祉法人白光福祉会 すみれ第二保育園

## 3. 執筆者

園長 石橋 豊美

## 4. 園紹介

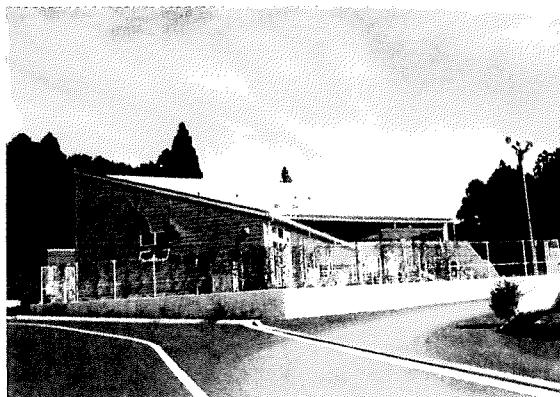
【所在地】茨城県水戸市開江町478

【定 員】90名 入所児童数104名（平成20年10月1日現在）

内訳 0歳児8名、1歳児24名、2歳児16名、3歳児19名、4歳児23名、5歳児14名

【沿革】旧園舎のあった中丸町から、5kmほど奥に入った現在地に平成20年4月に移転。市街中心部から離れ、緑に囲まれ広々した環境は保育には最高の立地条件ですが、公共交通手段がなく、ほとんどが自家用車通園です。

【URL】<http://www.sumire2.com/>



## 1. 一時保育事業の開始

地域の子育て支援事業を本格的に始めたのは、専用の子育て支援室ができた本年4月です。以前は園舎が狭く、専用の子育て支援室の設置が不可能なため、地域活動事業の中でイベントとして取り組んだり、園庭開放をしたりすることしかできませんでした。

そのような不自由な環境の中でも、保育体制を工夫すれば可能ということで、制度ができてすぐに取り組み、続けてきたのが「一時保育」です。

## 2. 一時保育のさまざまな利用例

一時保育を始めた当初、利用の理由は、「病院や美容院など子どもを連れて行きたくない所に行く」

「上の子の参観日」

「カルチャースクールや講演会に行く」

などを予想していました。事実そういう例もありましたが、次第に切羽詰まった理由によるものばかりになっていきました。

〔事例I〕きょうだいの入院付き添いで困っていた家庭

8か月の女児Aちゃん。兄が県立こども病院に入院となり、母親が昼間付き添うため市外の家族と離れて、母親とAちゃんのみ病院内の専用住居に住むことになりました。近くに頼る知人や親戚はなく、自宅で農業を営んでいる父親が来るには2時間ほどかかります。Aちゃんの保育について困った両親は、片端から電話で問い合わせ、当園にたどり着きました。

自宅が遠く、兄の入院で手一杯の様子なので、園で貸し出せる物は全て貸し出して支度を整え、保育を開始しました。最初は兄の入院期間が不明で一時保育でしたが、長期にわたることが判明したため広域入所の手続きをとって、園児となりました。

#### 〔事例II〕母親が入院し、祖父母に預けられたBちゃん

4か月の男児Bちゃん。自宅は県外。出産後間もなく母親が脳出血で倒れ、手術で命は取り留めたものの入院中。父親は仕事と母親の看病で精一杯のためBちゃんを実家（水戸市内）に預けていました。しかし祖父母も仕事を持っているため、ときどき無認可保育所を利用していましたが、知人に当園のことを聞いてたずねて来ました。

最初は、祖母の仕事の時だけ一時保育を利用していましたが、祖母の持病が悪化したため広域入所を勧めました。父親と直接連絡できなかったため、手続きがなかなか進まず気を揉みましたが、最終的には委託児になることができ、

入園式には、父母も出席しました。母親は車椅子での出席でしたが、わが子の姿を見て、リハビリの励みになったようです。

#### 〔事例III〕母親が入院しなければならないのに預け先がなくて困っていた家庭

2歳の男児Cちゃん。母親が緊急に入院する必要がありながら、Cちゃんの面倒を見る人がいなかったため入院できずにいました。困った父親が市役所担当課に相談し、紹介されて来園してきました。毎日利用の予定でしたが、母親の看病に駆けつけた祖母も協力してくれたため、Cちゃんは週3回ほどの一時保育利用となりました。2か月ほどで母親はCちゃんの保育が可能となり、現在は定期検診の日に一時保育を利用しています。

事例から、いざという時に孤立している子育て家庭の姿が見えてくると思います。普段は親子で楽しい家庭生活を営んでいるのに、何事かアクシデントが起きたときには近くで救いの手を差し伸べてくれる人がおらず、途方に暮れるという現実。



一時保育の様子

事例は両親揃っているケースですが、中にはひとり親家庭で、児童養護施設に頼まざるを得ないケースもありました。

保育園児の家庭は、毎日子育て支援を受けているといって良いでしょう。保育園からさまざまな情報がもたらされ、困った時・サービスを受けたい時のノウハウも知っています。しかし保育園と関わりのない生活をしている家庭では、保育園・子育て支援の利用の仕方もよく分からぬのです。また無認可と認可民間保育園の違いが分からない人も少なくありません。

#### 〔事例IV〕入所待ちで利用した家庭

1歳の男児Dちゃん。母親のZさんは、民間保育園は直接申し込んでいつからでも利用できると思っていました。そのため仕事が決まってから、当園に預けようと勇んで申し込みに来られました。そこで初めて市役所に行って手続きする必要があると知り、また月の途中からは入れないということも分かりました。せっかく決まった仕事を諦めることもできず、翌月の入所待ちで一時保育を利用することになりました。

全ての子育て家庭に保育園の機能を知ってもらうためには、子育て支援室の活用が必要だと思います。さらに日頃子育て支援室を利用している家庭では、いざというときすぐに保育園に頼ることができます。

#### 〔事例V〕切迫流産で緊急利用

今年の5月のことです。当園の子育て支援室「ぶれすとクラブ」会員のYさんは、「2番目が

できるんですよ」と少しだ大きくなったお腹をかばいながら1歳の男の子Eちゃんを連れて遊びに来ていました。ある日のこと、「どうもお腹が張るので」と早めに帰って行きました。その夕方、電話で「切迫流産で入院することになりました」と連絡が来て、一時保育の相談・申し込みがあり、翌日から退院まで2週間ほどEちゃんをお預りしました。その後、出産の前後にも一時保育を利用されました。

子育て支援室会員は、保育園の実情をつぶさに見ているため、信頼して一時保育を利用することができます。保育園としても、親子の状況が分かっているため預かりやすいという利点があります。このように子育て支援室会員=一時保育利用者の場合は、お互いに安心感があり、利用の際の手続きも簡素化できます。

保育園の機能を活用した次のような事例もあります。

#### 〔事例VI〕育児ノイローゼになってしまったお母さん

2歳の男児Fちゃん。母親が育児ノイローゼ気味で、カウンセラーに子育て支援室利用を勧められて来園してきました。しかし父親と一緒に来られない状況で、母子での親子登園はどうとうできませんでした。そこで、母親の負担軽減のために一時保育を利用してみました。一時保育で母親の症状に改善が見られ、「母子分離が有効」との診断で、Fちゃんは一般の入園児になり、最近では、母親一人で送迎できるようになりました。



子育て支援の様子 1

#### 〔事例VII〕障害の疑いのある子どもの一時保育利用

3歳の男児Gちゃん。障害の疑いがあり、様子を見て欲しいという依頼で週1回程度一時保育をすることになりました。保育園のネットワークから関係機関を紹介し、最終的に「自閉症」という診断が出ました。医師の薦めで、Gちゃんの発達促進のために、登園を継続しています。

#### 3. 一時保育の利用理由

一時保育の利用は、圧倒的に3歳未満児です。これは、3歳以上児のほとんどが普段から保育所または幼稚園に通っていることと、排泄、食事等に手がかかるため、プロに頼まなくても何とか保育できる年齢であるためと思われます。

3歳以上児で利用される場合としては、次のような例があります。

- ①幼稚園が夏休み中に母親が入院した。
- ②母親の入院で親戚の家に居るが、入園している幼稚園から遠い。

上記の②のように、3歳以上児、特に5歳児に

ついては、緊急時でも就学前の集団保育を継続して受けさせたいという願いから利用される例が見られます。その場合、園児と隔離された状態での保育ではなく、クラスの一員として受け入れる必要があります。

一時保育の最も安定した利用は、母親等が週に1～2回または不定期に仕事をするために預けるというものです。この場合も「クラスの一員で、単に休みが多いだけ」という扱いにすることが子どもも保護者も安心できるようです。

また〔事例IV〕のように正式利用の前段階として預けるケースも多くあります。この場合、一時保育は慣らし保育の意味を持つことになります。そのため配属予定のクラスで保育しています。

当園のように規模が小さい一時保育事業では、「専任の職員が専用の部屋で保育する」というのは、あまり考えられません。普段から加配保育士をクラスに配属しておいて、どのクラスでも対応できるようにしています。一時保育以外でも、いわゆる「気になる子」や障害児が年々増加しており、一人の保育士でクラスを運営することは難しく、加配保育士の必要性は高まっています。

#### 4. 事業開始当初の状況

一時保育事業開始にあたっては、職員の理解が不可欠でした。最初、問題となったのは「一般的の子は、最初に慣らし保育をし、面接や調査票で家庭や育ちを十分把握した上で預かっている。一時保育児はいきなり大丈夫なのか」ということでした。また「待機児童解消のために定員を超えて委託されている状況の中で、一時保育児を見る余裕があるのだろうか」という点も検討課題になりました。そして「どのような場合でも、必ず前もって来園してもらい、面接、調査票作成をする」「切羽詰まった状況で慣らし保育の時間がとれないのは当然。職員間のチームワークと保育技術でカバーする」という方向性が決まりました。

最初は「一時保育児が来ると負担だ」という様子を見せる職員もいましたが、数年経つと、困っている家庭の話を聞いて「園長、気の毒だから預かりましょうよ」という発言が聞かれるようになりました。職員間に「支援を必要とする家庭は委託児だけではない」という理解が深まり、経験と研修を積む中で一時保育に自信を持って取り組むことができるようになったからでしょう。

#### 5. NPO法人との協働

現状での一時保育は、一日5人が限度です。そのため急を要する家庭が優先されます。余裕があれば、母親の勉強や文化的活動にも支援したいところですが、とても無理な状況です。

そこで当園では、水戸市や土浦市で活動している「子育て応援・ペンギンくらぶ」と協働しています。ペンギンくらぶは、子育て環境の調査と提案、保育付き講座やコンサートの開催、子連れイベントの開催、情報誌やホームページで子育て情報の発信をしているNPO法人です。保育園では手の回らない部分で、きめ細かな子育て支援をしています。

当園からは、「保育ボランティア養成講座」に講師を派遣したり、情報誌の記事の提供をしています。講義を聴いて、地域のボランティアになる方もいますし、イベントの時に進んで保育担当になる方もいます。情報を提供すると、ひとつの保育園では伝えられないネットワークで多くの人に受け取られ、広がっていきます。



子育て支援の様子2

## 6. 今後の課題

地域の子育て支援事業は、日常の「園庭開放」「親子のひろば」「相談」「情報提供」などのほか、「一時保育」があつてはじめて安心感のある制度になるのではないかと思います。

当園では平成18年度まで自主事業で一時保育を実施してきましたが、平成19年度から水戸市在住者に限り補助が受けられるようになりました。ありがたいことですが、市外から一時保育を利用する方が多いのも実情です。緊急の場合には、市外（父母）から市内の親戚（実家）に子どもが預けられるケースが稀ではありません。

また平成21年5月21日から裁判員制度がスタートすることに伴い、他市町村在住で地方裁判所のある水戸市での一時保育利用を希望する方も出て

くることが考えられます。一時保育にも広域入所のような制度があればよいと思います。

一時保育は、毎日一定の希望者がいるとは限りません。地域によっては、年間1ヶタしか希望者がいないこともあるそうです。しかし人数や日数を限らない補助があれば、もっとたくさんの保育園で一時保育事業に取り組み、保護者の利便性が増すのではないかと考えます。

今後の課題としては、裁判員制度などにより遠方からの利用の場合、前もって来園して手続きすることができない可能性もあります。郵送、FAX、Eメールでの書類のやりとり、電話での説明などが考えられますが、漏れのない対策が必要です。さらに職員の研修を深め、さまざまなケースに対応できるよう準備しておきたいと思います。

### 山縣先生からのコメント

一時保育は、現在全国に約23,000か所ある認可保育所の約25%（公営：約15%、民営：約40%）で実施されています。ご存じのように、保育所保育指針第6章では、地域における子育て支援を、地域の子育て支援の拠点としての機能と一時保育の2つに分けています。このことは、一時保育が子育て支援の重要な手段であることを意味しています。2008年11月に改正された児童福祉法では、一時預かり事業として法定化もされました。

一時保育の目的について、国は「常日頃、保育所を利用していない家庭においても、保護者の疾病や災害等により、一時的に家庭での保育が困難となる場合がある。また、核家族化の進行や地域の子育て力が低下する中で、育児疲れによる保護者の心理的・肉体的負担を軽減するための支援が必要とされている。こうした保育需要に対応するため、保育所等において児童を一時的に保育することで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ること」と説明しています。

一時保育は、制度的には3段階で進められてきました。

第1段階は、国の説明の前段にあるような内容を理由とするもので、社会的理由といわれることがあります。事例I・II・III・Vなどがこれにあてはまります。これには、冠婚葬祭など問題が継続しない単発的なもの、問題が一定期間継続するものの長期化はあまりしないため「保育に欠ける」程度が低くなるもの、不定期就労・非定型就労・短時間就労など、大きく3つの類型があります。

第2段階は、国の説明の後段にあるような内容を理由とするもので、子育てのストレス、育児疲れ、リフレッシュで、私的理由といわれることがあります。事例VIがこれにあたります。これについては、社会的にも、現場関係者においても一部に批判がありますが、24時間子どもに向かい続け、失敗の許されない子育てを強いられている母親や、自分の時間を持つことのできない母親には重要な支えとなっているのです。

第3段階は、待機児対策として一時保育が利用される状況で、事例IVがこれにあたります。制度的には、特定保育もこの機能を果たしており、近年では一時保育と特定保育は、一つの類型として説明されています。

すみれ第二保育園の事業をみると、これらがバランスよく実施されていることがわかります。子育て家庭の支援のために、これからも活動を充実させていただきたいものです。

**1. テーマ**

送迎保育ステーション

**2. 保育園名**

ことぶき乳児保育園分園

(かごはらことぶき保育ステーション)

**3. 執筆者**

ことぶき乳児保育園園長 高田 澄枝

**4. 園紹介**

**【所在地】** 埼玉県熊谷市籠原1丁目91番地

**【熊谷市の総人口】** 206,550人（平成20年10月1日現在）

**【保育所数】** 公営13か所、民営22か所

**【送迎保育ステーション登録人数】** 47名（平成20年10月1日現在）



0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児以上
0名	2名	7名	6名	32名 (学童10名)

**【送迎先】** 保育所：公営2か所、民営4か所

学童クラブ：公営4か所、民営1か所

**【特 色】** 思いやりに満ちた家庭的な雰囲気の中、心身の安全と健康に気を配り、子どもの持つ無限な可能性を大切にして、一人ひとりそれぞれの育ちに寄り添って見守り、地域との連携を図りながら望ましい未来を作り出す力の基礎を培うことを目指しています。

**【URL】** <http://www.vesta.dti.ne.jp/~ikujikai/kagohara/>

**1. 送迎保育ステーション事業に取り組むように****なった動機**

埼玉県は通勤時間のもっとも長い県で知られています。そこで、駅を利用する保護者の利便性に配慮し、保育所への乳幼児の送迎と子育て家庭の需要に応え、育児相談、及び一時保育を行い児童の健全育成と子育てしやすい環境づくりを推進する目的で、平成8年度、埼玉県保育ステーション

モデル事業を実施しました。

高崎線籠原駅は、ことぶき乳児保育園に近い熊谷市の西部地区にあり、通勤路線駅で上り方面の始発駅となっているため、その利用者の多い駅です。駅の周辺においては区画整理事業により宅地整備が進められ、今後も人口増加が見込まれています。このような地理的条件、通勤状態、今後の見通し等に着眼した埼玉県から熊谷市に保育ステーション設置の依頼がありました。

ことぶき乳児保育園は昭和45年5月に開園（熊谷市家庭保育室認定）し、開園当初より産休明け保育（生後42日目）、短時間・長時間保育、育児相談等保護者のさまざまなニーズに応えてきました。平成8年度事業で定員増（45人から90人へ）のため園舎全面改築整備の実施時期と重なり、時代に沿った子育て支援の一環として送迎ステーション事業の目的に賛同した社会福祉法人育慈会が、熊谷市より依頼を受けて実施に至りました。

埼玉県の要綱によると実施場所は駅ビル、または近い家屋でしたが、籠原駅周辺には該当する施設がありませんでした。駅から徒歩8分ほど離れたところに熊谷市区画整理地内に保留地があり、住宅街で通勤経路に最適と考え、高田澄枝（園長）個人が土地を購入し、施設の整備に着手しました。これを社会福祉法人育慈会に賃貸し、平成9年3月27日に開設しました。



かごはらことぶき保育ステーションバス



今日は学童のお兄さん達と一緒にうれしい!!

## 2. かごはらことぶき保育ステーションの活動について

### 送迎保育ステーション事業

熊谷市は都内等への遠距離通勤者が多く、保護者は通勤・勤務時間の関係上、朝は早い時間に乳幼児を送り出し、夕方は遅い時間にお迎えとなります。このため通所している保育所の開園時間帯内の送迎がとても困難となってしまいます。

保育ステーションは、このような状況にある保護者のサポートを行う事を目的としています。保育ステーションを中心として半径3km以内にあることぶき乳児保育園、スダナ保育園、籠原保育所、玉井保育所、しらこばと保育園、ことぶき花ノ木保育園に入所している乳幼児が対象です。

この事業は、原則として駅を利用している保護者の利便性を高めようということを目的としてお



バス車内 シートベルトを着用します。  
座席背部分を改造してシートベルトを取り付けました。



夕方ステーションに戻り異年齢児と過ごすひととき

り、駅の近くに設置された保育ステーションを起點に送迎することで、保育所までの送迎の負担軽減を図ることができます。また、開所時間が朝6時30分から夜9時までとなっているため、遠距離通勤で朝早く出勤しなければならない保護者その他、不意の残業等によりお迎えが遅くなる場合にも対応することとしています。このように、保護者の仕事と子育て両立の一端を担いながら、子育て家庭への保育サービスの提供を行っています。

平成16年度からは、就学児の学童クラブの送迎も依頼され、実施しています。

表1 保育ステーションの利用料

保育ステーション事業	月～金曜日	6:30～21:00
	土曜日	7:00～18:00
利用料（バス利用）	1日	1,000円
○おやつ………	1回	100円（希望者）
○夕食………	1回	300円（希望者）

### 一時保育・短時間保育

保護者の就労形態の多様化に伴う短時間保育、保護者の傷病等による緊急時の保育、保護者のリフレッシュを図るための一時保育など、「保育に欠けない」子育て家庭へも支援を行っています。

表2 一時保育・短時間保育の利用料

一時保育 利用料	3歳未満児	3,000円 (8:30～16:30 飲食費含む)
	3歳以上児	2,500円 (8:30～16:30 飲食費含む)
短時間保育	1時間	700円（飲食費含む）
※上記利用料金以外に実費を徴収する場合もあります。		
育児相談（無料）		

### 育児相談

地域の子育て家庭に育児に関する悩み等の相談を来所、または電話で対応する等の支援も行っています。相談料は無料です。

図1 送迎の流れ

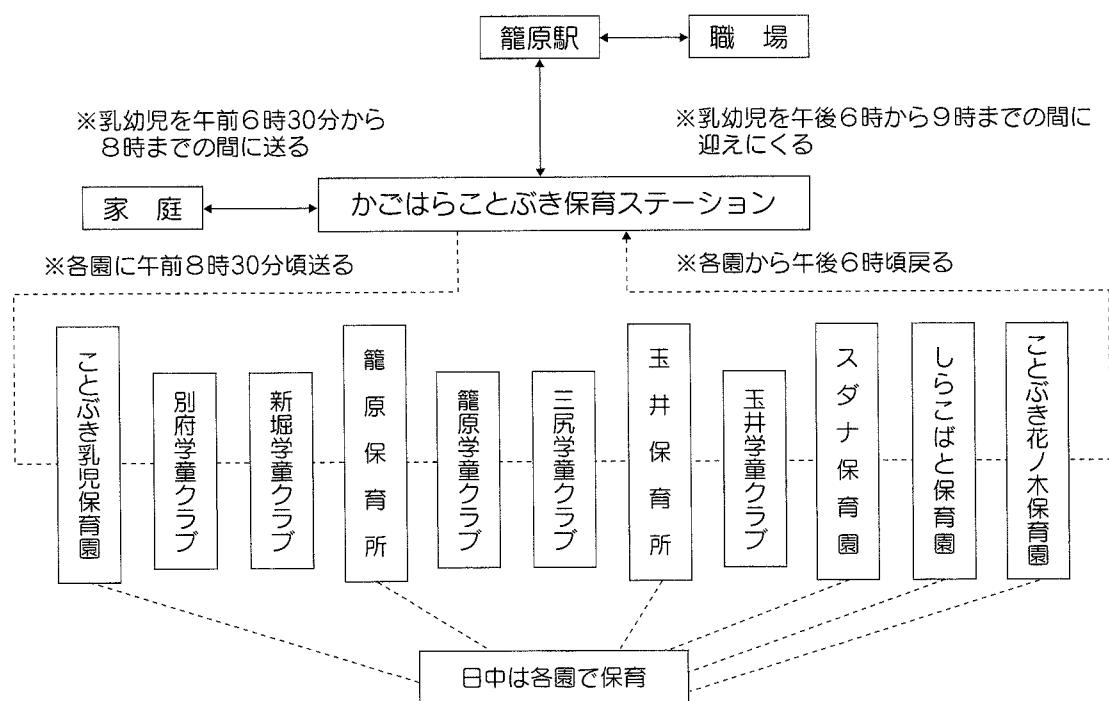


図2 事業のイメージ図



### 施設の概要

開設年月日 平成9年3月27日

敷地面積 260.06m<sup>2</sup>

建築面積 121.05m<sup>2</sup>

延床面積 102.41m<sup>2</sup>

構 造 木造平屋建て（全室床暖房）

主な施設 保育室 44.70m<sup>2</sup>

事務・医務室 11.59m<sup>2</sup>

育児相談室 8.69m<sup>2</sup>

調理・調乳室 6.21m<sup>2</sup>

脱衣・シャワー室 5.00m<sup>2</sup>

### 3. 実践内容及び補助事業と独自事業との関係

保育所の利用に際しては、原則として保護者が各自保育所に送迎する事となっており、すべての家庭に対応するものではありません。

送迎先保育園の距離は乳幼児の乗車時間を考慮し、かごはらことぶき保育ステーションを中心に半径3km以内としています。

送迎用バスについては、平成11年度車両購入費補助金（300万円）で12人乗りバスを購入し、走行中の安全のため園児座席9人分のシートベルト

を取り付け、座席の高さを調整し、夜間走行するため車内に照明設備を施しております。

保育士はローテーションで勤務し、開設時間は常時3人を配置しています。バスの送迎時には1人がバスに同乗し、2人がステーションに残っています。

朝・夕の送迎を行いますが、朝は各自が保育園に直接登園する家庭が多く、バスの運行は1回で済みます。夕方の利用者が多く、乗車定員12人のバスでは乗り切れず、東廻り、西廻りなどと工夫しながら運行しています。

利用は基本的に登録制とし、利用日を申請する事としていますが、当日の申し込みにも対応し、毎日平均17人の利用者がいます。長時間にわたる場合もあるため、保護者の希望に応じておやつ、夕食も提供しています。

送迎サービスの実施については、保護者と送迎先の保育所の連携をとることができるように、三者で毎日『保育ステーション連絡カード（保育の様子等）』を作っています。また特別な事項については保護者がお互いに電話で連絡を取ります。園児の安全のため、常に地域住民との協力も密にしています。

保険については、民間の保険、通園バス傷害保険に加入しています。

表3 保育ステーション展開の経緯

平成9年3月27日	平成8年度埼玉県保育ステーションモデル事業（全国初の施設）
(事業主体)	熊谷市より社会福祉法人育慈会に委託
平成11年4月1日	保育所地域子育て支援推進事業として実施
(事業主体)	社会福祉法人育慈会
平成12年4月1日	駅前保育センター事業

(事業主体)	社会福祉法人育慈会
平成14年4月1日	送迎保育ステーション試行 事業実施～現在に至る
(事業主体)	社会福祉法人育慈会

### 独自事業

学童クラブの送迎を平成16年から実施しています。

#### 4. 課題・評価

保育ステーションは埼玉県モデル事業として開設しましたが、3年間で委託事業が終了しました。運営継続の危機に直面しましたが、多数の利用者の強い要望を受け、事業継続の方策を模索しました。本法人、埼玉県及び熊谷市が検討した結果、ことぶき乳児保育園の分園として位置付け、保育

所地域子育て支援推進事業の一環として補助事業の形で（平成11年度）としてスタートすることになりました。平成14年度からは『送迎保育ステーション試行事業』として位置付けられ、現在に至っています。（補助基準額については表4）

新しい事業に取り組むことへの難しさを痛感したのと同時に、誰かがこれらを引き受けて一歩前進しなければ、子育て支援事業は進まないと考えています。

この地域は駅に近く利便性も高いので、当地に移り住む家庭が多くなってきました。安心して子どもを生み育て、安心して就労できる保護者の施設としての送迎保育ステーションでありたいと思います。

また多様な保育需要に対応するため保育室の整備拡充ができるれば、送迎箇所数を増やし待機児童の解消を図りたいとも考えます。

表4 保育ステーション事業の補助基準額

平成8年度（1か月分のみ）		平成9年度	平成10年度	平成11年度
運 営 費	2,015,116	29,207,800	29,207,800	7,610,200
運行委託費及び施設賃貸料	3,244,500	14,977,000	14,977,000	4,992,000
施 設 賃 貸 料	0	0	0	0
施設設備に関する補助(初年度のみ)	0	0	0	0
施 設 改 修 等 経 費	3,000,000	0	0	0
施 設 整 備 費	1,000,000	0	0	0
車 両 購 入 費	0	0	0	3,000,000
合 計	9,259,616	44,184,800	44,184,800	15,602,200

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
運 営 費	7,215,400	7,215,400	13,365,600	13,374,000	13,300,800
施 設 賃 貸 料	3,320,000	3,320,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
合 計	10,535,400	10,535,400	16,365,600	16,374,000	16,300,800

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
運 営 費	12,411,000	13,349,000	13,346,000	13,416,000
施 設 賃 貸 料	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
合 計	15,411,000	16,349,000	16,346,000	16,416,000

子どもたちにとっても、他園の子どもたちと接することで皆兄弟姉妹のように仲良く、家族と思えるほど親しい雰囲気です。保護者からは、勤め帰りに立ち寄るかごはらことぶき保育ステーションは、1日の疲れが取れ、ホッとすることができる、

明日への活力が湧く温かい場所との声が聞かれます。

この事業は送迎を行うことにより、待機児童解消及び子育て支援の場として全国各所に展開して欲しいと願っています。

### 山縣先生からのコメント

制度的には保育所の利用時間は、子どもが保育所で過ごしている時間ということになりますが、利用者視点でいうと、家を出てから家に帰るまでの時間という感じになるものと考えられます。すなわち、送迎時間が就労時間に加算されるということです。職住分離が進む中で、送迎時間が短縮されることは、保護者にとっては非常に有効なサービスとなるものと考えられます。

ことぶき乳児保育園の送迎保育ステーションは、一時期、行政の姿勢などに振り回され、継続が危ぶまれた状況もあったようですが、利用者の立場にたって工夫をしつつ継続されています。また、自分の園に限らず、周辺の保育所に対しても、適切にサービスを展開されている点が評価できると思います。このことが学童保育への送迎拡大にもつながったものと考えられます。保育所は保護者の送迎が原則となっていますが、学童保育は子ども自身で移動することになります。夕方以降の降園に不安をもたれる保護者も多いことでしょう。このような家庭には、送迎保育ステーションが不可欠なサービスとなっているものと考えられます。

### 保育ステーション連絡カード

月	日( )	送迎時間	朝	:	夕	:
保育園名			乳幼児氏名			
送ってきた人			お迎えの人			
朝の体温	℃	朝食	健康状態		薬	
♪家庭より♪		§ 保育所（園）より §		#ステーションより#		

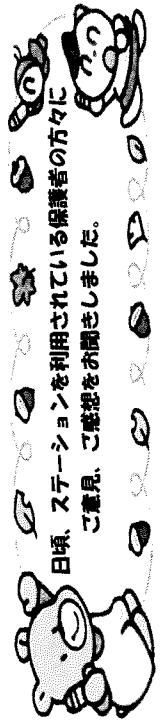
# ステーションバスだよ!



No.3 秋号

平成20年10月22日

かごはらことぶき保育ステーション  
朝夕の風がだいぶ冷たく感じられるようになり、ステーションの回りからは秋の虫の鳴き声が心地よく聞こえてきています。  
日暮れも早くなり、夕方、子どもたちがステーションに着く頃には辺りはすっかり暗くなっていますが、バスのドアが開くとともに子どもたちの元気な声が聞こえます。  
夏が過ぎ、またひとまわり成長を感じられる子どもたちと楽しく過ごしていただきたいと思います。



日頃、ステーションを利用されている保護者の方々に  
ご意見、ご感想をお聞きしました。

●うちは、二人とも最距離運動のため、ステーションバスを毎日利用しています。  
ステーションバスは子供達も大好きで、保育園に行く楽しみの一つになっています。  
休みの日にも、「ステーションバスでここも通るよ」なんて教えてくれます。  
忙しい朝晩の送迎をしていただいているため、時間にゆとりが生まれて大助かりです。  
また、他の保育園のお友達や年齢の異なるお友達と仲良く接することができる、大変貴重な教育の場になっていると思います。

●我が家は約8年以上バスを利用させていただいており、なくてはならない本当に嬉しい存在であります。(バスだけではなく、ステーションとあわせての利用となります。)

息子も現在、小学校3年になっておりますが、今も学童からステーションとお世話になります。半量も18：30までとはいえ、実際には正社員として毎日働く中で、18：30までにお迎えに行くのは本当に難しいものがあります。また、私自身4年程前までは毎

日東京まで通勤しておりましたので、ステーションからバスで保育園に送っていただけないといふ会社員生活が続けられませんでしたし、当時の仕事で橋本、新潟や豊野、仙台などにときどき出張がありましたが、これらもステーションとバスを利用することで何とか日帰りでこなしていくことができました。

最近、昔に書かれていたるライフワークバランスを考えれば、どんどん早く帰宅できる職場が望ましいのは誰しもが解っていることありますが、同じ会社であっても職制や個人の能力、職場環境等同じ子育て条件が実現できるものではなく、ステーションの近くに住みながら、ステーションとバス、先生方のご理解のおかげで今もってなんとかセラリーマン(ワーマン?)らしく日々を送っているのは本当に幸運なことと有難く思っています。子供を巡る様々な事件が起る今日この頃、娘が安心して子供を見守っていただける環境に心から感謝しています。

●働く私達(仕事の終わる時間が遅くなる私達)にヒテはとても助かっています。(Tくんのお母さんより)  
また、たくさんのお友達とバスに乗ることが楽しいようです。(Eさんのお母さんより)

●保育園での6年間にわたり、ステーションとバスを利用して頂きました。

最初は他のお友達と同じようにバスの乗り降りができるのか、きちんと座っているらしく車内が心配でしたが、保育士さんが楽しくリードしてくださいたようで家に帰ってから車内でのお話を聞くなどを聞かせてくれ安心させられました。

毎日バスに乗ったので、町の地図が頭の中に入ってくるようになり、家族で車で出かける時も道順に関して詳しくなっていました。  
小学校にあがってバスの利用は遠ざかっていましたが、最近になって都合により再びお迎えバスで学童から乗せて頂くようになりました。

案外で子供が巻き込まれる事件が多い中、バス利用により保育士さんに安心してみて頂き、駄菓子屋に対応してくださるおかげで私もは仕事に支障をきたすことなく、集中して働くことができます。  
お母さん達の社会進出がめざましいだけでなく、働き方も様々であればニーズも多様化しています。その声に耳を傾けてくれるサービスが偶然にもこの熊谷市にあったことに安心を感じています。(0さん小学1年生のお母さんより)

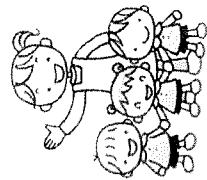
\*質問なご意見ありがとうございます。  
保護者の方々の懐顧にお応えして、これからも安心してお預かりできる保育を心がけていきたいと思います。

# こんな風に過ごしていきます

18:30頃 ステーションにバス到着  
(2回目のバスがだいたい18:30前にはステーションに戻ります)

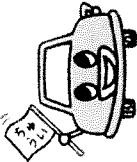
6:30 子どもたちを解散受け入れ

家で朝食を食べられなかった子は持ってきた朝食を食べています。  
子どもたちそれそれが、好きな絵本を見たり、ブロック遊びやままごと遊び、折り紙など好きな遊びを楽しんでいます。



7:50 お片づけ、バスに乗る準備をします

回る順はその時のバス利用児によりますが  
(鶴原保育所) — (ことぶき乳児保育園) —(スダナ保育園)の順  
バスの中では、お歌を歌ったり、保育士に絵本を読んでもらいながら楽しく過ごしています。



8:10 バス出発(子どもたちを各園に送ります)

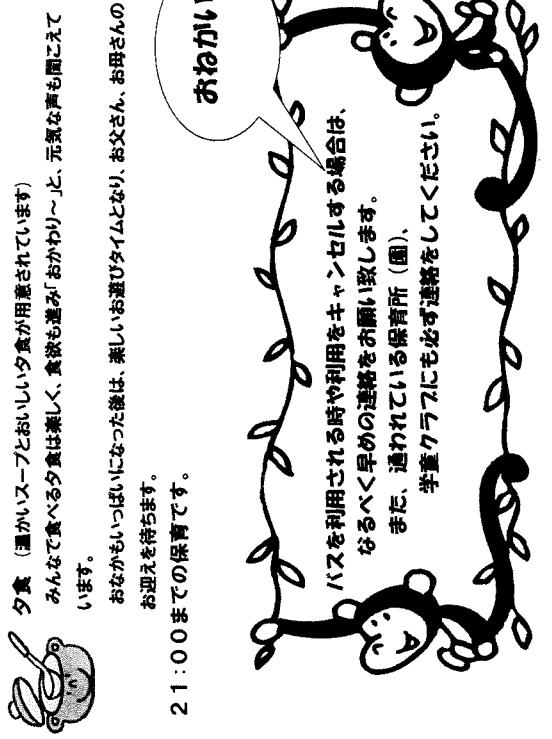
ステーションカードは家庭とステーションと保育園の様子が一目でわかるように用意したもの。お欲しいと思いますが、お子様の様子や連絡事項などを一書きいてください。協力よろしくお願ひいたします。



17:15 各園に子どもたちを迎えて行きます。

回る順番はその時のバス利用児により、乗る人数を調整しながら、だいたい2回に分けて迎えに行きます。

(ことぶき花の木保育園) — (スダナ保育園) — (しらこばと保育園)  
(玉井保育所) — (玉井学童クラブ) — (新穂学童クラブ) — (三尻学童) — (鶴原保育所) — (鶴原児童クラブ) — (鶴原西児童館) —  
(ことぶき乳児保育園)



18:30頃 ステーションにバス到着  
(2回目のバスがだいたい18:30前にはステーションに戻ります)



\* 何かご相談などございましたら、ご連絡ください。  
かごはらこども保育ステーション 533-0776



# 双葉保育園（神奈川県 逗子市）

## 1. テーマ

気張らずに出来る子育て支援

—担任参加型の子育て支援事業—

子育て支援活動の一般化と職員の資質の  
向上を兼ね備えた活動

## 2. 保育園名

社会福祉法人ふたば会 双葉保育園

## 3. 執筆者

副園長 横地 みどり

## 4. 園紹介

【所在地】 神奈川県逗子市久木 2-7-2

【定 員】 180名

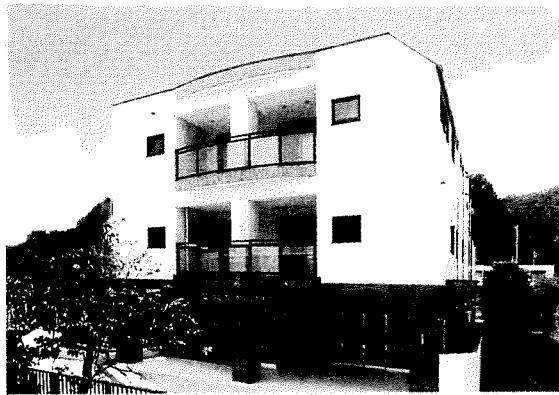
【沿革】 逗子市は鎌倉市と御用邸のある葉山町の間にあり、海に面している人口6万人弱の市です。住民の年齢層は若い層より高齢者が多い市となっています。最近では、30～40代の年齢層も増加しつつあり、都心や横浜へ通勤する人たちが多く暮らしていますが、大きなマンションは少なく戸建住宅が多いのが特徴です。

保育園は公立2園、民間3園あり全園の合計定員数は630人です。国基準の待機児は平成20年10月1日現在3名となっており、近年多少増加の傾向にあります。当園は、昭和21年に開所し、逗子市の中では一番古い園として、地域に根ざした活動を行っています。周辺には戸建住宅、幼稚園・小中高校が並び、小さな山に囲まれて緑豊かな環境が整っています。保護者は地域の商店の方や、フルタイムで都心に通われる方が多く見られます。

【URL】 <http://www.zushi-futaba.ed.jp/>

## 1. 双葉保育園における子育て支援の展開

昭和63年より逗子市地域育児強化事業として  
①育児相談、②地域交流事業、③育児情報提供事  
業、④一時・休日保育事業、の4つの補助金事業  
が始まりました。双葉保育園では昭和63年以前よ  
り育児相談、地域交流事業がすでに日常的に行わ  
れており、補助金が後から付いてきたという感じ



でした。一時保育も行っていましたが、専用保育室がなく、一般の保育室で一緒に行っていたため、補助金は付かず保育園独自の事業として展開していました。

当時、保育園における子育て支援がうたわれた頃で、神奈川県としても育児支援センターの普及に努めていました。昭和62年に園長が全日程15日間位の育児支援研修に参加し、保育園における地

域子育て支援の趣旨を学び、支援を展開していました。育児相談は園長、主任が行い、その他に保健師、言語聴覚士の定期的な相談も実施しました。また、歯科衛生士、絵本作家、親子ジャズダンス等の単発の催しも断続的に行っていました。並行して緊急の保育を必要とする人たちの一時保育も保育園オリジナルの事業として実施していました。

### 職員のとまどい

事業開始当初、子育て支援、一時保育を進めていこうする園長、主任とクラス担任達の意識の違いが問題になりました。クラス担任達にとって、それ以前は在園児の保育だけですんでいたのですが、そこに一時保育の子どもが入るというのは抵抗がありました。まとまっているクラスに新入園児が不定期に入るということですから、毎日の流れを乱したくないという気持ちが先立っていました。また子育て支援の講座も外から来る講師の先生が行うもの、育児相談は園長、主任が行うもので、自分達には関係のないものという空気でした。今までになかったことですから、抵抗感が生じるのは仕方ないことです。

そこでこの子育て支援事業に全職員が参加できないものかと考えました。地域の親子が保育園で

楽しく過ごす時間を、子育て支援担当の職員（主任）と担任の職員が行うというものです。幸い双葉保育園は各クラス複数担任でしたので、一人が抜けてもクラス運営には大きな問題はありませんでした。もちろん抜けたクラス担任の代わりにフリー職員が手伝うということもあります。

全職員が参加することで2つの効果を期待しました。ひとつは保育園における子育て支援の理解と抵抗感の払拭、もうひとつは保育技術の向上です。

### 職員一人ひとりが参加する事業計画

子育て支援の年間計画は子育て支援担当の主任が作り、それにそって一般保育士が参画する形式です。方法は参加よびかけ型活動の計画立案・実行です。主任が指導をしますが、まずは保育士が自分で計画立案します。おおむね8~10組の未就園親子によりかけ、40~60分親子で楽しむ活動です。内容は、親子絵画制作、音楽リズム、リトミック、親子バレエ、紙芝居、読み聞かせ、クリスマスパーティー、フラワーアレンジメント教室、など様々です。これらは保育士の得意分野で、アメリカ人の幼稚園の先生の資格を持った方とのハロウィンパーティーもありました。

内容は部分保育のようなものです。受け入れか



担当保育士と主任との綿密な計画作り  
初めての保育士は緊張で一杯です。

ら主たる活動の細かい計画、環境設定などを行います。勤続年数が2年以上位の保育士が担当となりました。新人職員は園児を連れて見学補助をして次回の参画の参考にします。地域からの参加は申し込み制ですので、参加する子どもの年齢が事前にわかります。その時点で細かい保育の準備の調整を行います。初めて参画する保育士には、子どもの発達に応じた教材・素材、親子参加の対応の仕方など、全般にわたって細かく考るよう主任が指導し、同じような月齢の園児を集め予行演習をする場合もあります。計画には案内のポスター作りもあります。当初は地域の掲示板へ張るために申請を子育て支援の主任が行っていました

が、途中からポスター作成、申請、掲示まで保育士自らが行うようになりました。自分の計画にどれだけ反響があるかということなのです。職員の参画は、多くの保育士が経験するようにしていきますので、一人の保育士にとっては1年に1回あるかないかです。栄養士が参画するものもあります。

## 2. 事業内容

双葉保育園では表1に示すような事業を行っています。活動風景の一部を写真でも紹介しておきます。



ふたばクラブリフレッシュ講座。フラワーアレンジメントが得意な保育士が講師のアレンジメント教室。このスペースはランチルーム・体操活動・BEBEふたば・ふたばクラブ・その他に変化します。



ふたばクラブ  
親子で工作！ 赤ちゃん連れの親子もいます。



アレンジメント中の一時保育です。在園の子ども達と一緒に過ごすこともあります。



BEBEふたばのスペースに1歳児の園児が遊びに来ています。身長体重も測定でき、看護師がお話をしたりします。

表1

参加申し込み型	
ふたばクラブ	
①各種活動+みんなで給食を食べましょう	
②各種活動	
参加自由型	
①ふたばクラブOUTDOOR 公園出張スタイル	
②BEBEふたば（0・1・2歳）	
③BEBEふたば（0・1・2歳）+試食会	
④園庭開放	

### 逗子市地域育児強化事業

双葉保育園の子育て支援は、神奈川県地域育児センター事業と保育対策等促進事業の一時保育事業を合わせたものです。補助金の詳細は以下の通りです。

表2 補助金の内訳

補助金事業名	補助額（円）
子育て家庭交流事業費	100,000
中高生と園児の体験交流事業費	100,000
世代間等交流事業費	100,000
一時・休日保育事業費	2,000,000
合 計	2,300,000

\*一時保育は保育士一人専任となります。

今回の内容は子育て家庭交流事業と一時保育事業について記載をしました。小中高校、老人施設等が近くにありますので、体験交流事業が展開されています。よそではあまり見られない事業として、市内の私学男子中高校の施設を利用する5歳児のお泊り保育があります。これは、男子中高生と一緒に宿泊するものです。将来父親となる若者に有効な事業となっており、大きな意味で言えば子育て支援と言えると考えています。

### 普段の保育の中に自然に入り込む子育て支援活動

当園の子育て支援は、園舎の中に独立して常時子育て支援室が設定してあるわけではありません。子育て支援室としてのスペースは、多目的に使われます。今の園舎は3年前に建て替え、スペースが大きくなりましたが、毎日時間帯によりそのスペースは、子育て支援、保育、試食会、懇談会、ランチルーム、延長保育、と多様な使われ方をします。ですから子育て支援事業が展開されている横で、通常の保育が行われることもあります。ふたばクラブに在園児が一緒に参加する場合もあります。そのことが、園児や他の職員とのさりげない交流ともなっています。



ふたばクラブの後、園児と一緒にランチルームで食事をしています。  
この部屋はBEBEふたばに模様替えします。

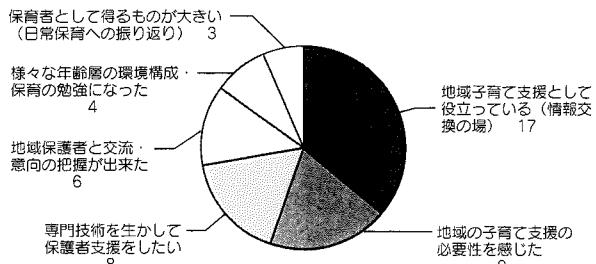
## 子育て支援事業に参画してきた担任達の声

20年あまり多少のスタイルの変化を加えつつ、多くの職員が参加してきました。数回参加しただけで、退職していった職員もいますが、現在在籍している主任以外の子育て支援参画経験保育士12人と栄養士2人に子育て支援について意見・感想を聞いてみました。平均経験年数は約6年、平均参画回数は約4回となっています。多くの意見がありましたが、よかった点が47件、大変だった点が17件でした。意見の傾向を円グラフ（図1・図2）にしてみました。

保育士や栄養士の意見・感想を読むと、子育て支援について事業開始当初ほど違和感が見られませんでした。「自分たちの活動が子育て支援として役に立っている」「地域の親子にふれあうことで子育て支援の必要性を知ることができた」という傾向がわかりました。当日までの準備の大変さはあるが、自分達の経験となりその専門性を生かした子育て支援をしていきたいという前向きさも読み取れます。

図1 子育て支援事業に参画してよかった点  
(N=47)

よかった点：総数47



## 3. 双葉保育園子育て支援の課題と評価

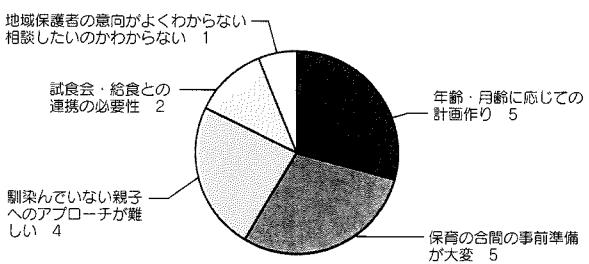
20年あまり地域の子育て支援をしてきて、今回初めて保育者に意見を募りました。現在いる職員の中で直接参画した人だけですので、必ずしも正確な傾向ではないかもしれません、今回まとめた職員の意見より以下のことが理解できました。

- ①計画提供した場で、地域の親子が関係作りを築いていく様を目の当たりにするのは、保育者のプロ意識の向上に影響している。
- ②子育て支援の活動が普通保育と密接した場で行われることで、園児、保育者は親しみを持ち、子育て支援事業や一時保育に違和感がなくなる。
- ③子育て支援の必要性を身をもって知り、自分達の専門性を生かして支援していきたいというモチベーションにも繋がる。
- ④計画作り、実施により保育の勉強になり、日常の保育の振り返りになる。

以上の4点にまとめられました。一般の担任や栄養士が子育て支援事業に参加するということは

図2 子育て支援事業に参画して大変だった点  
(N=17)

大変だった点：総数17



年齢・月齢に応じての計画作り	5
保育の合間の事前準備が大変	5
馴染んでいない親子へのアプローチが難しい	4
試食会・給食との連携の必要性	2
地域保護者の意向がよくわからない相談したいのかわからない	1
合計	17

多角的に効果があるということです。

一方、実施上の大変さも見逃すことはできません。

①日常業務の中での準備が大変である。

②色々な年齢の子ども達へ対応する計画作り  
の苦心。

この二つが大きなものですが、相対的な数は多くありません。これは裏を返せば、それが保育士の資質の向上につながっているということです。準備の大変さは、非常勤等の助けなどで補わなければなりませんが、最初のねらいである子育て支援の理解と抵抗感の払拭そして保育技術の向上は、保育者の言葉から達成できていると読み取れます。つまり、スペースの面でも、また保育者にとっても普段の保育に支障をきたすことなくできる子育て支援として、一般保育者（子育て支援担当以外）が参画する子育て支援も一つのスタイルではないかと考えるのです。

#### 4. 今後の課題

中で一つ印象に残ったのは、「色々な子ども達と一度に接する中で、発達の違いと保育の仕方をマッチさせる大切さを知った」と目を輝かせて言ったことです。当たり前のことですが、日常無我夢中で過ごしている保育経験が浅い保育士にとって重要な気づきです。

今、保育者の資質の向上のための園内研修に焦点が当たられています。担任参加型の子育て支援は、OJTとして大きな効果が期待できます。息の長い子育て支援事業を無理なく進め、それが園内研修としての機能も果たしているのです。

一般の保育士の業務に子育て支援活動を組み入れるのは色々な制約や葛藤があるかもしれません。業務の大変さを補う体制を整え実施すれば、参画することで保育士の資質向上が図れることは確かです。子育て支援だけの職員を少数育てるより、子育て支援の場を保育者の資質向上の場としても考えることを、ここに提案します。

今回、初めて参画した保育士のインタビューの

#### 山縣先生からのコメント

児童福祉法では、保育士を「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」と定義しています。保育士には、子どもの保育とは異なる保育指導の技術が求められるということになります。

保育指針解説書では、保育指導を、「子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上をめざして行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示その他の援助業務の総体」と説明しています。このように、保育指導とは、「経験豊富な保育士」が「未経験で未熟な親」に教育的に関わることではありません。

双葉保育園の子育て支援活動をみると、支援メニューの多様性と柔軟な対応に特徴があります。保育指導の一つに「行動見本の提示」がありますが、実際の子育て支援活動においては、これは保育士が行うだけではなく、保護者仲間の様子をさりげなく見せるという方法でも可能です。また、フラワーアレンジメントなど、母親に向かう活動というよりも一人の人間に向かう活動も組み込まれています。ふたばクラブの活動には、このように、保育指導という面からも、子育て支援のターゲットという面からも多様なメニューが取りそろえられています。

双葉保育園の取り組みでもう一つ評価すべき点は、職員一人ひとりが、事業計画の中で役割を果たしているという点です。子育て支援は保育所の付帯事業であり、担当を割り当てられた人が担うべきものという考え方の園もあるようですが、園全体として取り組むべきものという姿勢が重要です。

## 4

# 勝山保育園（山口県 下関市）

### 1. テーマ

つなぐ・ささえる・ひろげる子育て支援

### 2. 保育園名

勝山保育園

### 3. 執筆者

副園長 中川 浩一

### 4. 園紹介

【所在地】 山口県下関市秋根新町12-12

【定 員】 150名 入所児童数179名 (H20.10.1)

【沿 革】 昭和55年4月開設

下関市は本州の最西端に位置する人口30万人の中核都市です。本州と九州を結ぶ交通の要衝の地であり、古くから港湾・漁業基地として栄えてきました。当園は、山陽新幹線の新下関駅から徒歩5分、市内の中でも比較的新興住宅街で周辺は宅地造成や道路の開発整備計画も進んでいて、人口が増える地域に立地しています。

【URL】 <http://www1.ocn.ne.jp/~katuyama/>



### 1. はじめに

当園が本格的に子育て支援に取り組むようになったのは、平成6年の12月、地域子育て支援センターモデル事業の指定を受けるようになってからです。現在は地域子育て支援拠点事業のセンター型として、地域を舞台に様々な事業展開をしています。

その中でもとくに当園が力を注いでいる子育て支援の方法は、子どもや家庭を地域全体で支えていくための『ネットワーク作り』です。地域の中には保育以外にも子どもや子育て家庭を支えているたくさんの専門家、機関、団体、サークルがあります。しかし、これまでそれらの間には、個々の事業展開だけでお互いの連携や協働といった繋がりが、ほとんどみられませんでした。それらが連携し、協働し合えるような関係作りができるれば、個々

の事業の幅がもっと広がり、ひいては子育て中の親子にとって子育てしやすい環境になると思います。

その連携や協働するための第一歩として、まずは同じ地域の子育て支援者同士が、お互いの事業の内容を知ろうと始まったネットワークづくりと、その中で大きくふくらんできた当園の『つなぐ・ささえる・ひろげる』子育て支援を紹介します。

### 2. 実践内容

当園の地域への子育て支援の実践方法は、表1に示すように大きく3つになります。

表1 子育て支援の実践方法

- ①個々への支援（直接的支援）
- ②つなぐ・ささえる支援（間接的支援）

### ③ひろげる支援（ネットワークづくり）

#### 個々への支援（直接的支援）

個々への支援とは、本来の保育所の機能である就労家庭に対して多様な保育サービスを提供したり、保育所や支援センターの人・モノ・ノウハウといった保育資源を地域の子育て家庭に開放するなど、直接的に親子を支援するものです。また新保育所保育指針に明記された入所児童の保護者に対する子育て支援もこれに含まれます。これは、ほとんどの保育所や支援センターで展開されています。

当園では「つくしんぼの会」というサロンを立ち上げています。登録した4グループ、約100組の親子が遊びに来ます。季節ごとにグループ合同の「つくしんぼ教室」、グループごとの遊びの「ワイワイプラザ」、年齢ごとの遊びの「スマイルひろば」、それにグループを越えて誰もが遊びに来られる「はなはなの金曜日」などのメニューがあります。



#### つなぐ・ささえる支援（間接的支援）

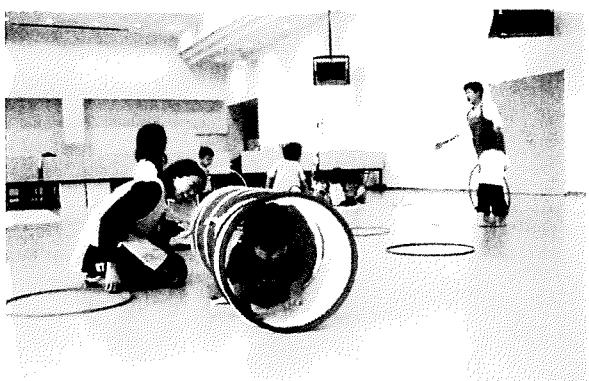
つなぐ支援とは、直接的に親子を支援するのではなく、保育所以外の機関や施設・団体へ繋いだり紹介したり連携をとりあって支援する方法です。

当園の子育て支援の方針は、保育所すべてを抱え込まないで積極的に他の機関や専門家へ繋ぐことにあります。例えば子どもの心と体についての相談は園医、こども発達センター、ことばの教室、保健所、児童相談所などに繋いでいます。

子育て支援で「支援される人」といえば父親・母親、そして子ども達であることは当然ですが、これからは、子育て支援をしている人を支援するといった視点も大事ではないかと思います。親子を支援している機関や施設、サークルや学校などを応援、支えるという支援の方法がささえる支援です。

つなぐ・ささえる支援において、大事なことは、どこにどういう人や窓口があるのかをよく知っておくことです。これが分からなければ、繋ぎようも支えようもありません。このチャンネルを増やしていくことにより、子どもや子育て家庭にとって、より質の高い子育て支援サービスを提供できることになると思います。

子育て支援センターを3つの型に分けると、当園は「まねかけセンター」です。園に親子を招いて支援する「おまねきセンター」と、園から地域に飛び出し出張支援する「おでかけセンター」の



両面で支援をしていますが、とくに出張子育て支援を積極的に行っています。市内3か所の公民館で行われる市保健所主催の乳児相談教室への支援、大型ショッピングセンターで行われる市が主催のキッズフェスタに出張支援、地域の親子サークルに保育士や指導員を派遣、また場所の提供や遊具の貸し出しなどを行っています。支える相手先は、地区担当の保健師、主任児童委員、母子保健推進委員、子育てサークル、市社会福祉協議会、市こども課、育児ボランティアなどです。

また、当園は山口県子育て支援センター連絡会の幹事並びに事務局として、県下の子育て支援センターを広い意味で支えていると思っています。

『つなぐ・ささえる支援』のメリットは、表2に示す6つの点にあります。

表2 『つなぐ・ささえる支援』のメリット

- ①広く支援（より多くの親子と関わることができる）
- ②深く支援（一人ひとりの親子により深い子育て支援ができる）
- ③ギブ・アンド・テイクの支援（ボランティアとしてサポートしてもらうことができる）
- ④きめ細かな情報収集（地域の子育て情報をきめ細かく入手できる）
- ⑤みんなを活かす支援（サポートする相手もサポートする自分自身も、活かす場作り〈支え合い〉をすることができる）
- ⑥抱え合いの支援（抱えられることで自分や人を抱えることができる）



また事業推進の中で課題や留意する点が見えてきました。それはサークルの中心者にサークルの社会的意味づけをして自信を持たせることの大切さ、またサークルの自主性をできるだけ重んじて、あまり手や口を出しすぎない関わり方が重要なポイントだということ、サークル運営者への励ましと次期運営者の育成などです。

### ひろげる支援（ネットワークづくり）

第3のひろげる支援とは、地域における子育てネットワークづくりです。これまで保育とあまりなじみのない教育、福祉、医療、保健などの関係者を繋ぎ、地域ぐるみで子ども、親、家庭を支えていくという関わり方です。下関市は、地域との繋がりは都会ほど失われておらず、専門家の顔もわりと掌握しやすい規模の街です。しかも専門家の間に、職種や縄張り意識を超えて繋がろうとするエネルギーをもった人が多いという特徴があります。こんな下関市で平成9年に産声をあげたネットワークを紹介します。

### 3. こどもなんでもネットワーク下関

#### 事業開始のきっかけ

下関市の子どもに関わる専門家は、それぞれの分野単独で問題を協議し対策を講じていました。いつの頃か、「お互いの連携があればもっと個々の事業が活かされていくのではないだろうか」「子どもに関するあらゆる問題に対してもっとざっくばらんに意見交換する場が必要なのではないだろうか」という声があがるようになり、下関市小児科医会の有志の呼びかけに賛同した専門家によって平成9年『こどもなんでもネットワーク下関』が立ち上りました。当園も発起人の一人として、現在世話人兼事務局を担っています。

## 組織体制

代 表：NPO法人Nest代表 石川章

事務局：勝山保育園 中川浩一

会員数：65名、30団体

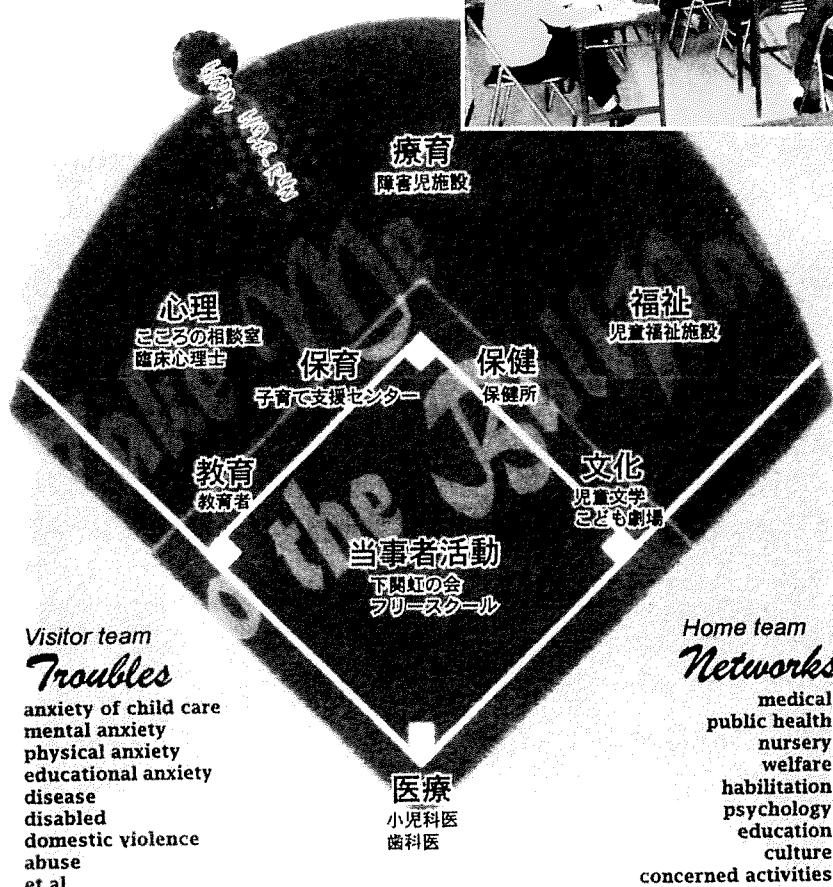
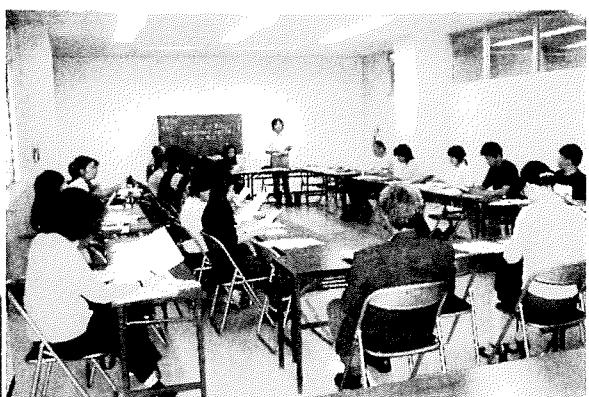
会員構成：小児科医 精神科医 大学教員（臨床心理学・保育学・児童文学） 幼小中高教諭 養護教諭 フリースクール運営者 保育士 看護師 子育て支援センター担当者 保健師 臨床心理士 作業療法士 栄養士 児童養護施設職員 指導員 児童相談所職員 子育て支援サークル代表 CAP下関 少年補導員 親業インストラクター 絵本講師など

H P <http://www1.ocn.ne.jp/~katuyama/k-net.html>

## 事業内容・事業実績

### ①月に1回の定例勉強会

定例勉強会は月に1回（第2火曜日）19時より市内の公民館で開催しています。毎回の参加者は20～30名程度で、家庭的な雰囲気の中、参加者が交替で自分の仕事の取り組みや現場での様子を報告し合い、その後意見交換するという形式ですすめています。最近は会員以外の方にも声をかけ、話題提供をお願いしています。内容は別表1に示す通りです。（2008.9月現在まで64回開催）



# こどもなんでもネットワーク下関

## ②こどもフォーラムの開催（年1回）

こどもフォーラムは、専門家と学生ボランティアが、企画はもちろん準備から当日の運営まで全て自分たちの手作りで行うイベントです。プレ開催から第10回までの内容は別表2の通りです。このイベントは、子育てを支援する側の勉強会というイメージではなく、むしろ親子が楽しめて、しかもちょっと勉強になったと思ってもらえるような企画を心がけています。

フォーラムの柱は以下の3つです。

- (A) みんなの会（講演会、シンポジウム、コンサートなど）
- (B) べつべつの会（分科会）
- (C) こどものフリーマーケット



## ③活動の特徴

当ネットワークの最大の特徴は、日常の個々の活動では知り合えない様々な職種の人とふれあう機会を得られることです。しかもネットワークの中の人同士で上下関係や縛張り意識がないような雰囲気作りを心がけています。また問題を抱えている相談者へ他の専門的なケアが必要と判断したとき、その窓口の紹介にとどまらず、担当者の名前と顔を紹介できるという点で相談者に安心感を与えることができています。

支えられる親子にとっては、幼保・小中高・大学生・大人になるまでの時間という縦軸と地域と

いう横軸で支えてもらえることもネットワーク支援の特徴です。また支える側にとっても自信をもって個々の相談やサポートをすることができるようになり、さらに他の職種の専門家の取り組みやその問題点、苦労話を聞くことによって、今まで見えてこなかった子育て支援の新たな視点を発見したり、「保育ももっと頑張ろう！」という心理的エネルギーも得ることができます。

子育て家庭が地域で支えられるのと同じように、子育てを支える専門家も地域での繋がりに支えられること（支えの連鎖）は大切なことだと思います。

## 4. 行政・関連機関・他のネットワークとの関係

当ネットワークと行政との直接的な関わり、協働はありません。しかし、会員の中には公立保育所の保育士や公立学校の教諭、保健師等も参加しているので行政との連携はとりやすく、時には行政からも定例勉強会の情報提供者になってもらっています。また、こどもフォーラムでのボランティアスタッフ募集やイベント広報には大きな力となっています。

下関市が新設の児童館を建てる際に、どのような建物にするか専門職としての意見を求められたことがあります。その時は、ネットワークの仲間で協議し、パブリックコメントとして市へ提出しました。

会員の中には、当ネットワーク以外にもそれぞれの専門分野での人の繋がりがあったり、別のネットワークにも入っている人が多くいます。会員が所属する団体や組織が主導で行う講演会やイベントについては、当ネットワークとして後援はもとより、時には全面的な協力をすることもあります。ダニエル&ハンナ・グリーンバーグ下関講演会や「角野栄子と24人の絵本画家たち」展では主

【別表1】

## 定例勉強会（51回～64回）

回	日付	内 容	情報提供者
51	H19.4.10	『どうなる特別支援教育』	かねはら小児科院長 金原洋治
52	H19.5.8	『福岡市の特別支援教育から』	下関市こども発達センター臨床心理士 山口真理子
53	H19.6.12	『ヤングテレホン』について	下関市青少年補導センター青少年相談員 向江淳子
54	H19.7.10	『北九州市におけるスクールカウンセラー活動の紹介』	下関児童相談所 児童心理司 野島智彦
55	H19.12.11	『こどもとおとの心とからだ 命のはなし「コミュニケーションワークショップ」』	うどにしつとむ
56	H20.1.23	『婦人相談員の仕事について』～DV相談窓口として～	婦人相談員 山下るみ子
57	H20.2.12	『NPO法人下関市自閉症・発達障害センター シンフォニーネットの取り組みについて』	シンフォニーネット 副理事長 岸田あすか
58	H20.3.11	『下関市の児童クラブの取り組みについて』	児童クラブ担当 益本朝美
59	H20.4.15	『グリーンファームの活動』	精神障害者通所授産施設 中本英樹
60	H20.5.12	『ちゃいるどフェスタって何？』	ちゃいるどフェスタ 実行委員長 中川浩一
61	H20.6.10	『総合支援学校と視覚障害者教育』	山口県立下関南総合支援学校 教諭 福田勉
62	H20.7.8	『子どもの育ちって何だろう？』	市教育委員会 学校教育課 教育研究室 松永章
63	H20.8.12	『貴和の里につどう会』のお話	貴和の里につどう会 広報・涉外担当 小野又久仁子
64	H20.9.9	『「やまぐち子育て県民運動」について』	やまぐち子育て県民運動推進会議 会長 今井佐知子

【別表2】

## こどもフォーラム（プレ～10回）

回	日付	みんなの会		べつべつの会	こどものフリマ
		演題	講師		
0	H9.9.13	こどもの心を育む	筑波大学名誉教授 真仁田昭	下関市における育児支援	
1	H10.11.17	こんな学校もあったよ	フリースクール「地球学校」代表 児島一裕	(パネル) こんな学校があつたらな	○
			日本グルントヴィ協会幹事 清水満		
2	H11.11.7	こどもたちと大人たち	精神科医＆作家 なだいなだ	(パネル) お母ちゃん・お父ちゃん・妻・そして私	○
3	H12.11.3		元「お母さんといっしょ」の歌のお兄さん かしわ哲	(パネル) 子ども育ち大人育ち相談室	○
4	H13.10.28	いま子どもに必要なもの	東亜大学助教授 下川昭夫	医療保健・保育幼児教育・教育臨床心理	○
5	H14.11.10	「ありのままのあなたを生きる」	エッセイスト 浜文子	医療保健・保育心理・教育心理・CAP大人のセミナー	○
6	H15.11.9	『思春期に花ひらく子育てをめざして』	大阪人間科学大学社会福祉学科 教授 原田正文	児童文学・保育心理・教育心理・CAP大人のセミナー	○
7	H16.11.14	子どもたちの現状～何が欠けてしまったのか？～	九州大谷短期大学幼稚教育学科 教授 山田真理子	児童文学・医療保育心理・教育心理・CAP大人のセミナー	○
8	H17.11.6	「心の健康と自分を知らせる」というテーマ	CAPスペシャリスト うどにしつとむ	児童文学・食育・NPプログラム・教育相談・教育心理	○
9	H18.10.15	みすゞコンサート	シンガーソングライター もりいさむ	児童文学・食育・教育相談・教育心理・親業ワークショップ	○
10	H19.10.28	生きること育てるここと	エッセイスト 浜文子	魔法作家スズキコージと遊ぼう	○

体的に取り組みました。

下関ではネットワーク同士の繋がりも強く、他のネットワークが主催する講演会やイベントにおいても情報提供はもちろん、時として協働で取り組むこともあります。

さらに、下関市社会福祉協議会が「子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり連絡協議会」を立ち上げた時も、当ネットワークの世話人から3名が運営委員となりました。

#### 「さらにひろがる」子育て支援ネットワーク

最近下関市では様々なネットワークが誕生し、お互いが繋がりはじめ、さらなる広がりを見せて います。図1は、当ネットワークに参加していた 東亜大学の学生だった能勢さんの卒論の一部で す。ソシオグラムという手法を使って人と人の繋 がり方や広がり方、さらに当ネットワークに押 された形で、違うネットワークが立ち上がってい く様子がよく分かります。

平成9年にこどもなんでもネットワーク下関、 平成12年には、障害の子どもを抱えたお母さんの 支援サークルのネットワーク「ママ♪ねっとわーく」が立ち上りました。そして平成13年には 「ウインズ・オブ・ゴット」という映画放映を行った 学生達と地域の中で放課後クラブを立ち上げ、小 学生の遊び場を提供していた方によって「ウイン

ズ」というネットワークが立ち上りました。こ のように子育てネットワークが同じ地域でどんど ん広がることは、「渡る世間は親ばかり」と子育て 親子に感じてもらえる社会に繋がると信じてい ます。

#### 4. 課題と評価

当園の職員が当ネットワークを通じて保育関係 者以外の方々と触れあう機会が増えたことにより、 不思議と園も職員も保育の視野が広がったことを 実感しています。

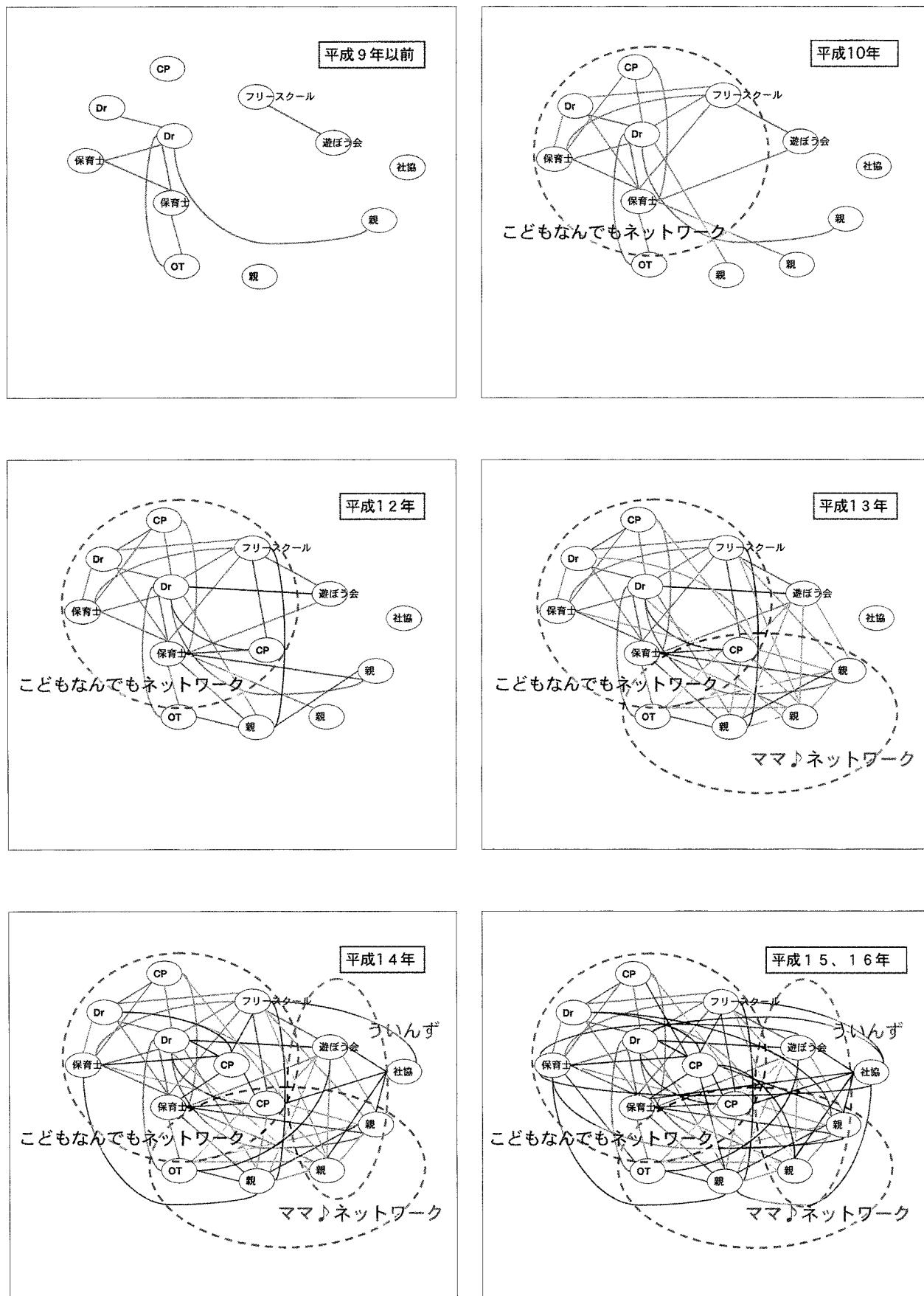
園だけでは背負っていけないような相談も、他 に繋げていくことで、専門的な、あるいはトータル なケアや関わりができたケースも多くありました。このよ うな子どもや子育て家庭をより大きな 輪の中で支えていける「子育てのネットワーク」は、虐待防止や難しい被虐待児への対応、あるいは 気になる子どもや不登校、非行の子どもや家庭 への対応等にも大きな力を發揮し、それぞれの事 業展開の強力なバックボーンになっています。

また、ひとりの子どもが大人へと成長するまで に、どれだけの人が関わったか、その関わる人 が多ければ多いほど、子どもにとって幸せです。そ の一番後ろで大きく手を広げて「子ども」や「家 庭」を支えていける保育所になれたらと思います。

#### 橋本先生からのコメント

地域の子育て支援の方法は、「子ども」や「家庭」を地域全体で支えていくための「ネットワーク作り」で あると記されています。この記述から、勝山保育園が、地域を意識的に捉え、自園も地域の親子が育つ環境を 支える資源の一つとして活用していることがうかがえます。実際に地域の資源と多様につながり、その形状は、 つながった状態で固定されている公的な協議会とは異なっています。地域の親子を含む資源がイベント等を通 してつながり、その関係の中でモノ、ヒト、コトが動く、流動性が意識されています。それは、「支えの連鎖」と 表現されています。このような地域全体を俯瞰した取り組みは、地域を拠点とした子育て支援と呼ぶこ とができます。

図1 こどもなんでもネットワークの広がり過程



**1. テーマ**

ケータイ・パソコンで子育て支援

**2. 保育園名**

社会福祉法人わかば福祉会 わかば保育園

**3. 執筆者**

園長代理 小島 貴子

**4. 園紹介**

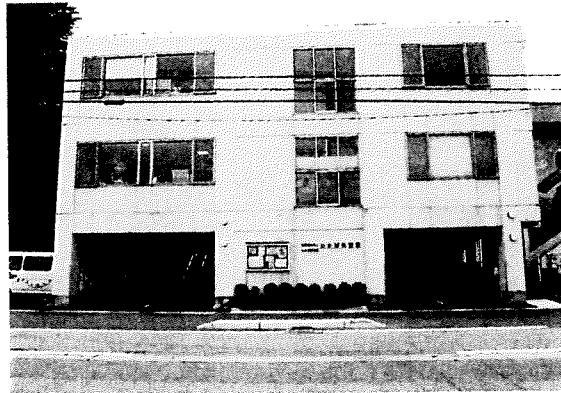
**【所在地】** 富山県富山市堀川町455

**【定員】** 150名

**【園の特色】** 「親子の幸せに貢献する」という法人の理念を基に、すべての子育て家庭と手を取り、親子の希望にこたえることができる保育園をめざしています。また、遊びを中心の保育の中で、丈夫な身体、考える力、仲間と協力する力を育て、外遊びを重視しています。

**【URL】** <http://www.wakabahoikuen.jp>

**【Eメール】** [info@wakabahoikuen.jp](mailto:info@wakabahoikuen.jp)

**1. 当園の地域子育て支援**

当園は、乳児専門の保育所が必要という地域社会の要望で、宗教法人神宮寺の附帯事業として昭和43年4月1日に定員40名で開園し、今年で創立41年となります。その間、昭和58年には延長保育の指定園となり、平成4年には休日保育を開始、平成9年には学童保育を始めました。様々な特別保育事業を開始したきっかけは、当園に通っている保護者の就労の実態からでした。常勤で働いている保護者にとって保育時間の延長は必須ですし、サービス業の保護者の方には、休日保育が必要でした。また、保育園時代はなんの心配もなく働くことができたのに、小学校に入学したとたん安心して働くことができない状況から学童保育を開始することとなりました。事業を始めた当初は、

「保育所が母親を甘やかしている」とか「子どもと過ごす時間が短いので、子どもが不安定になるのでは」などの批判もありましたが、現在では社会的にその必要性が認められ、なくてはならないものとなりました。

地域の子育て家庭への支援は、平成7年の一時保育事業に始まり、平成10年には親子サークルを開始し、平成19年には子育てサロン事業を行い、それが平成20年には市の委託事業として子育て支援センター「にこにこひろば」の開設につながっていました。地域の子育て支援を始めた頃は、「在園している子どもたちだけで手がいっぱいなのに、なぜ、そこまでしなければならないか?」「一時保育でリフレッシュが理由で利用する親の気持ちがわからない。子どもがかわいくないのか?」

等々の疑問を持っている保育士もいましたが、事業を行っていくうちに、在宅で子育てしている家庭のほうがより問題をかかえていたり、子どもの育ちや生活リズムの乱れがひどかったり、母親の精神状態が不安定だったりする状態がみられることがわかつきました。さらに、平成15年の保育士国家資格化により保育のプロとして、子どもだけではなく保護者の指導も保育士の業務になったということで、地域の子育て支援を推進していくかなければならないという使命を保育士自身が感じるようになりました。

保育園としては、「一人でもニーズがあればできる範囲で子育て支援をしていこう」という考えで取り組んでいます。休日保育や学童保育をはじめたきっかけは、一人の母親からの訴えでした。一時保育の料金設定は他の保育所より高いのですが、申し込みがあったときには必ず受け入れをするようにしようという心構えでいます。また、新しいことにもひるまずに挑戦していこうという考えも持っています。新しいことに挑戦するためにエネルギーがいりますが、努力は必ず保育士自身そして保育園に財産として残ると考えています。

## 2. 子育て情報配信事業とホームページ「ワクワクkids」

### 子育て情報配信事業

平成19年度の（独）福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の助成事業として「わかば子育て情報支援センター 子育て情報配信事業」を始めました。この事業は、近年幼児・児童を狙った犯罪が多発しており、こうした問題は親だけで解決できる範囲を超えているものが多く、保育園や地域・行政が連携した取り組みが急務となっていることなどを意識して始めたものです。そし

て、子育てに関する情報は多々ありますが、不審者情報や食中毒や流行している病気などの情報は地域に根ざしたもので、かつリアルタイムなものが多いことから、インターネットを利用し、携帯電話のメールに保育園、子育て支援関係機関、行政や警察などと連携したタイムリーな情報の提供ができるシステムを構築し、安心・安全に関わる情報や保育に関する情報を提供することで、子どもの健全な育成を支援することを目的としています。

平成19年5月に第1回運営委員会を行いました。行政の関係者として富山県厚生部児童青年家庭課や富山市役所子ども福祉課の看護師、警察関係では富山中央警察署生活交通安全課の方にも運営委員になってもらい、関係機関が協力して行える体制にしました。その後、6月には保育園の職員に対する講習会が行われ、同じく6月の保護者会の総会で今回のシステムの説明会を行い、まずは、保育園の保護者の方の理解を得て登録してもらいました。7月には登録された方に情報がちゃんと届くかをテスト配信し、その後システムの改良が行われ、11月より本格的サービスの開始となりました。

その間に登録者数を増やすために、ポスターとチラシを地域の地区センター・スーパーに置いてもらい、同じ法人が運営している保育園や学童クラブの保護者の方にも説明会を開催しました。また、子育てサロンや親子サークルを利用している方にも呼びかけました。平成20年度には、子育て支援センターが開設されたのでセンター利用者にも呼びかけました。当初、登録数は約100件でしたが、現在（平成20年10月）では、276件になっています。

子育て情報としては「流行病情報」「食中毒情報」「不審者情報」「子育て情報」「支援センター情報」「イベント情報」があります。「流行病情報」

や「食中毒情報」は、保健所からの情報提供をもとに、リアルタイムに、今流行っている病気の名称や状態、どのように対処したり予防したりすれば良いかという情報を流します。

「不審者情報」は主に警察からの情報をもとに流しますが、最近では近隣の保育所や小学校とも連携を図り、知り得た情報を流すようにしています。

「子育て情報」は、「離乳食の進め方」や「夜の寝かしつけ」など保護者の方が困っているのではと思われる情報を担当者が調べて流します。

「支援センター情報」は、支援センターで行われる行事の案内を主にしています。「イベント情報」は富山市近郊で行われるイベントやわかば保育園で行われる行事についての案内をしています。

利用者の声は表1の通りです。「あまり役立っていません」という声もありますが、全般的に「役立っています」という声が多く嬉しい限りです。

表1 子育て情報配信事業利用者の声

- ・イベント情報を見て、出かけたりしています。
- ・大変役立っています。
- ・イベント情報はとても良いです。
- ・前はよく「お話の会があります」とか届いていたのに、最近なくなりました。子育て支援センターに行きたいなあと思っていても、いつの日に何があるかわかられば行きやすいのですが、メールが来ないとお話の会とか身体計測の日はなくなったのかなあと思い、行けなくなりました。メールでお知らせしてもらえばいいと思いました。
- ・週末にどんなイベントがあるかわかるのでとても良いです。
- ・送られてくることによって、気をつけないといけないと考える機会が増えました。
- ・小学校の不審者情報よりもまめに配信される

のでいいと思います。

- ・こまめに情報がくるのでとても役立つ。
- ・特に不審者情報はとても良いと思います。子ども達の安全のために。
- ・不審者情報は参考になって良い。
- ・いろいろな情報を教えてもらえるので助かります。
- ・イベント情報はあまり役立っていません。

## ホームページ「ワクワクK i d s」

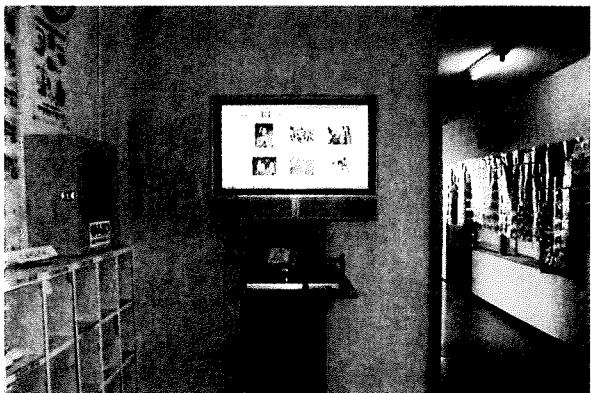
「子育て情報配信事業」の開始に合わせて、当保育園のホームページ「ワクワクK i d s」もリニューアルしました。当園のホームページは、平成15年1月から開設され、「写真館」「掲示板」「今日の保育」「子育て相談」「お休み連絡」の5つのコーナーで構成されていましたが、リニューアル後は「写真館」「保育日誌」「掲示板」「お知らせ」「お休み連絡」「今月の行事」「今月の予定」「相談室」の8つのコーナーになりました。

リニューアル前は全園児が同じログイン名とパスワードでホームページの中に入り、全員が同じ情報を見ていたのですが、リニューアルを機に家庭別にログイン名とパスワードを決め、クラス別にそれぞれの情報を見ることができるようにしました。これは、「写真館」では「自分の子どもがなかなかアップされない」「クラスによって偏りがある」という声があったことによります。また「保育日誌」というコーナーの新設は、情報のよりきめ細かな提供を意図したものです。私たちの保育園では、3歳以上児は個人の連絡帳を使用していないので、毎日クラスの前においてあるホワイトボードにその日のできごとやお願いを書いて知らせていましたが、家庭によってはしっかり見ていくれなかったり、祖母のお迎えが多く連絡が伝わらないという状況が時々見受けられま

した。それを「保育日誌」というコーナーで毎日配信して知らせるようにしたのです。

その他、「掲示板」と「今月の行事」「今月の予定」は全家庭共通のコーナーです。「お知らせ」のコーナーは、保育園側からの個人的なお知らせやお願いを配信するコーナーです。

「相談室」は保護者側から担任あるいは管理者に個人的に相談したいことやお知らせしたいことを伝えるコーナーです。相談があった場合はそれぞれに返信します。「お休み連絡」は保育園を休むときにメールで知らせができるシステムです。各家庭が携帯電話1台とパソコン1台を登録することができます。また、玄関前の大型テレビでは、「写真館」と「保育日誌」を見ることができ、登録されていない祖父母の方でもそこで見ることができるようにとなっています。



以上が当園のホームページの紹介です。登録は任意で強制はしていません。当初は「登録しなくてもいいです」という方もおられましたが、だんだんシステムを理解してもらえるようになり、ほぼ100%の家庭で登録してもらえるようになりました。おかげ様で、運動会が天候不順で場所が変更になる場合もメールの一斉送信で情報を伝えることができるようになりました。お泊り保育の時に電話連絡網でその日の状態を伝えていたことも、メールで行えるようになりました。迅速かつ確実に連絡できることは、保育園側にとっては、

効率アップにつながり、各家庭においては安心が保障されたのではないでしょうか？このホームページに関する保護者の感想は表2以下の通りです。なおこのアンケートは平成20年9月に実施したものです。

### わくわくKidsアンケート集計

回収率39%（124家庭中48家庭回答あり）

表2 「写真館」のコーナーについて

（よい 73% ふつう 25% わるい 2% 無回答 0%）

- ・良いのですが、最近写真館に写真がのっていません。
- ・もっとたくさんあるとうれしい。
- ・もう少し写りがよければ…。
- ・笑顔の方が嬉しい。
- ・いつも楽しみにしています。
- ・子どもの様子がわかって嬉しいです。
- ・もう少し拡大してほしい。
- ・保育園での様子がよくわかります。
- ・ピンボケの写真が多い。そんな写真は不要。撮り直してきれいな写真をのせれば良いのではないか。
- ・組によって更新の回数が違うので、少ない組は回数を増やしてほしい。
- ・更新をいつも楽しみにしています。
- ・子どもの1人ずつのアップがもっとほしい。
- ・子どもが休んでいる時に送られてくるのは、少しショック。
- ・保育園でどんな生活をしているのか見ることができるので良いと思う。

表3 「保育日誌」のコーナーについて

（よい 69% ふつう 27% わるい 0% 無回答 4%）

- ・毎日の様子がわかるので、とてもありがとうございます。
- ・先生は毎日大変でしょうが、毎日日誌が届くのが楽しみです。
- ・たまにしかメール配信されないので、もう少し回数があつてもいいかなと思います。仕事中でも子どもの様子がわかり、とても楽しみにしています。
- ・行事などでどんな事をしているか様子がわかっ

て良い。

- ・おたよりなどで見落としがちな所もメールでお知らせが来るので、忘れずに必要なものを持っていける。
- ・更新を楽しみにしています。

表4 「掲示板」のコーナーについて

(よい 36% ふつう 58% わるい 2% 無回答 4%)

- ・あまり活用されていないような…。
- ・毎回一緒に古い物が多い。
- ・あまり利用されていない感じがする。
- ・いろいろな家族の意見が見られて個々の考えが読める。
- ・特になし。

表5 「お知らせ」のコーナーについて

(よい 48% ふつう 48% わるい 0% 無回答 4%)

- ・あっていいと思う。

表6 「お休み連絡」のコーナーについて

(よい 56% ふつう 42% わるい 0% 無回答 2%)

- ・とても便利です。
- ・パスワードを入れるのが面倒。
- ・あればいいと思いますが、つい電話の方が早いので電話してしまいます。
- ・初めはちゃんと届いているか不安だったけれど、とても便利です。
- ・すごく楽になりました。
- ・とても便利で活用しやすいです。
- ・利用したことがないのですが、利用すると保育園から返信があるのですか。
- ・電話での連絡の方が早い。
- ・兄弟がいるのでどちらか休みの場合口頭で伝えているのであまり使用しない。
- ・送信したのかわかりにくい。もっと分かりやすいものが良い。メールでお休み連絡はよい。
- ・利用したことはありません。個人的にはやはり直接先生に伝えるか電話した方がなんとなくあたたかい感じがします。

表7 「今月の献立」のコーナーについて

(よい 54% ふつう 40% わるい 0% 無回答 6%)

- ・今日は何を食べたかわかるので。
- ・見たことがない。
- ・おたよりでもらうのでみたことはありません。
- ・私も食べたいと思います。
- ・おたよりでも載っているので、行事はよいが、献立は載せなくて良いと思う。
- ・特に必要ないと思います。

表8 「相談室」のコーナーについて

(よい 27% ふつう 63% わるい 2% 無回答 8%)

- ・使っていない。
- ・まだ利用したことがないのですが、してみたいです。
- ・基本的に悩みませんので、利用はしておりませんが。
- ・実際に気になることは保育士に相談しているので利用していない。
- ・あるのはいいと思いますが、同じクラスから先生を選んで相談するのは相談しにくい。
- ・なかなか言えないことも相談できる場があると思うだけで、違います。

表9 その他、よりよく・使いやすいホームページにしていくためにご意見をお願いします。

- ・写真の更新を増やしてほしい。
- ・普段の保育の仕事に加えて、多様な仕事をしていかなくてはならないのは本当に大変なことだと思います。いつもどうもありがとうございます。
- ・メールの間違いが2通届いて訂正がありましたが、間違えないようにしてほしい。
- ・延長保育の申し込みもメールで出来ると良い。
- ・今月の行事をもっと目につくようにわかりやすい感じにしてほしい。詳しい内容をお願いします。

アンケートの結果からは、よく利用されているコーナーの評価は高いが、あまり利用されていないコーナーは、評価が低いことがわかります。今後、あ

まり利用されていないコーナーについては、アンケートの結果に基づいて改善していく必要があると思っています。改善してより使いやすくして活発に利用されることが、在園児の保護者への子育て支援の1つにつながっていくのではないかと考えています。

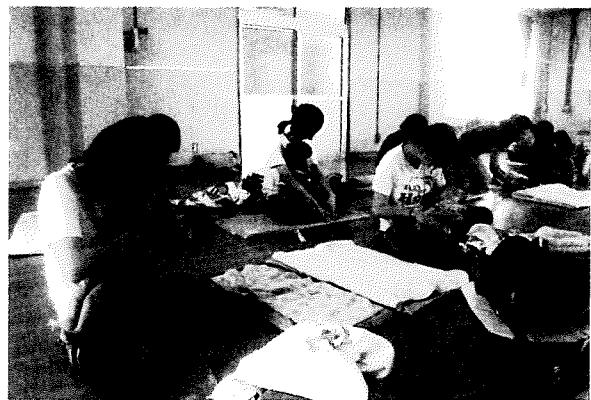
### 3. これからの地域子育て支援事業

長年、「子育て支援センターが保育所の数だけあつたら」と考えていましたが、今年度（平成20年度）市の委託事業として「わかば子育て支援センター」を開設できたことは、地域の子育て支援に貢献できる大きなチャンスであると考えています。子育て支援センターを委託されたおかげで、まず財政的に保障され、専任の保育士を置くことができるようになり、地域のことを専門に考えることで活動が広がってきています。

講師の先生を呼んで、読み聞かせや手作りおもちゃ作りをしたり、母親対象のヨガ教室を開いたり、絵本作り教室を開くことは財政が安定しているからこそできることです。また、身近にできることとして、園庭や遊戯室を開放したり、給食体験会や離乳食体験会も好評でたくさんの方に利用してもらっています。

今後は子育て中の母親だけでなく、妊婦さんにも声をかけ「マタニティーひろば」もやってみようと計画中です。まだ始めたばかりの事業なので手探り状態ですが、在宅で子育てしている方の手助けに少しでも貢献できれば幸いです。そのために平成19年に構築した「子育て情報配信事業」を足がかりに、より広く子育て支援センターの事業を理解してもらい、あまり広くない支援室なので穴場的存在の支援センターとして、利用した親子が「ほっとできる」場でありたいと考えています。そして、いつでも安心して訪れる事のできる支

援センターを目指していきたいと考えています。そのためにも、ホームページもより充実し、子育て支援に貢献できるものにする必要があります。



### 4. 子育て情報配信事業とホームページ「ワクワクKids」の今後

「子育て情報配信事業」は本格的な配信を始めて約1年となります。「役立っています」「助かります」という声が多いということは、この事業が成功しているということだと思います。しかし、配信される情報がマンネリ化したり、ほしい情報が得られないようなら、だんだん廃れていってしまうのではと考えられます。時々は配信事業の中でアンケート調査を行ったり、支援センターや親子サークルにきている保護者の方に意見を聞き、どんな情報がほしいのか、または役立つか、ということをリサーチしながら、常に改善していくという心構えが大事です。

登録者数の増加も大事なことであり、登録をした方に「登録したらいい情報が得られる!!」と思っていただけることが大切ではないかと思います。「利用者の声」という掲示板があるのですが、あまり活用されていないのが現状です。同じ立場である親同士の横のつながりではなく、保育園が行っているということで上から目線に感じられてしまうのかもしれません。そのようなことに気をつけ

ながら、活発に意見の交換ができるような掲示板になれたらいいなと思っています。

ホームページについては、主に在園児の子育て支援にあたると思いますが、アンケートの結果からも、特に多く活用されている「写真館」や「保育日誌」については保護者の評価も高いのですが、他の評価は低いものが多かったので、改善していくかなければならないと思います。

「お知らせ」のコーナーは園側から個人的な連絡をするのですが、聞くときにIDやパスワードが必要になってくるため、送っても見てくれない家庭も多いので、そこも改善する必要があります。また、返信ができないので、そのところも考慮する必要があると思います。

「相談室」については、相談事がないと利用できない感じで受けとめられているようです。本来、担任と直接日々の連絡をすることができるコーナーなので、名称を変えたらもっと利用してもらえるのではないかと考えます。その他、「延長保育の申し込みもメールでできると良い」や「行事をわかりやすくしてほしい」という要望に対しても、改善することができると思うので検討していくたいと考えています。

いずれにしても、携帯電話やパソコンのメールに対し渋い顔をしていては、若い保護者の心をつ

かむことはできないのではないかと思います。現に当園のホームページの「お休み連絡」を利用している方は、今年度に入園した子の若い保護者が圧倒的に多くなっています。

今後ますます携帯電話やパソコンに精通している保護者が多くなるのではと考えられるので、ホームページやメールの活用が重要になってくると思われます。しかし、それはきっかけであり、それがすべてではないと思います。そのきっかけから、人と人との交流が生まれ、真の子育て支援につながれば幸いです。なぜなら、子育ては一人で抱えこむことではなく、そこに関わるみんなで支えるものだと強く思っているからです。子育てが孤立しないよう支援していくことができれば、もっと子育てが楽しいものになるのではないかでしょうか。



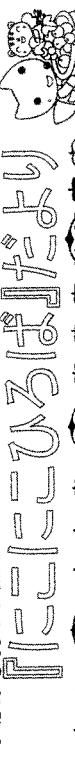
### 橋本先生からのコメント

ホームページ(HP)やメールを活用した子育て支援の取り組み例です。保護者のコミュニケーションの方が、電話や対面による会話から、メールやインターネットに移行している現状に対応した子育て支援といえます。取得しやすい方法で情報を提供することは、保護者が必要な情報を獲得することを助けます。また、2008年に改定された保育所保育指針では、保育所の説明責任、自己評価の公表、保護者への保育に関する情報提供が示されました。第2章で述べたように、今後は、デメリットへの対策を講じつつ、多様な手段、機会を活用しながら保育所の責任を果すことが求められます。保育所は、送迎時、保護者会、おたより、連絡帳、HPやメール配信等、多様な情報提供の手段を有しています。何をどの手段で伝えるのか、目的と内容によって手段を見極めていくことが必要です。

さらに、事例の最後で述べられているように、HPやメール配信が単なる情報提供に止まらず、それらをきっかけとして保護者同士や、保護者と保育者の交流が広がり深まること、子どもの育ちや子育てが支えられることが大切です。

平成20年度

一七八年正月



☆秋も深まつて気温の差が激しくなり、子どもに何を着せてよいのか悩む毎日ですね。風邪などひかず、元気に過ごせる

ようにしていたいのですね！

1月の予定



\*予定は変更になることもあります、ご了承ください。サークル日でもご利用できます。

⇒ <http://www.wakabayohokuuen.jp> わかば保育園のホームページから登録できます。  
わかば子育て支援センターにご用意いたしました。

★開館時間 9:00～16:00 ★開館日 月～金(団体行事の都合でお休みになることもあります)  
富山市堀川町455 (076)424-8833

社会福祉法人「わかば子育て情報支援センター」担当：菅原

子育て情報も「タブレット」

元和十九年登録しませんか

おしゃれな  
ホームページ  
http://www.wakabahoikuee.com

**わがばば保育**

TEL 076-424-8833  
FAX 076-424-8837

「子育て情報を配信して  
「お問い合わせしてね」と  
「お問い合わせしてね」と

不審者情報  
流行疾情報  
食中毒情報  
子育て情報  
サークルサーロン情報  
イベント情報

知ってト々さる  
情報がいいばい

## 子育て支援事業 や家庭における暴力

独立行政法人福祉医療機構  
長寿・子育て・障害者基金」助成事業

**1. テーマ**

かかりつけのマイ保育園

**2. 保育園名**

よしたけ保育園

**3. 執筆者**

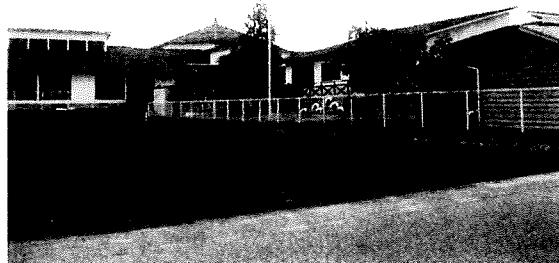
園長 長戸 英明

**4. 園紹介**

**【所在地】** 石川県小松市吉竹町ぬ47番地

**【定 員】** 330名

**【園の特色】** よしたけ保育園は、豊かな森や田畠に囲まれた抜群の自然環境の中にあり、大規模園なのに一人ひとりを大切にする保育を実践しています。例えば、卒園証書はA3版の大きさで、その子に合わせて言葉が筆で書かれている世界でたった1枚の卒園証書です。文は「あなたは」で始まり、「ありがとう、ここに卒園します」で終わります。証書はまさに職員の園児に対する感謝が表されています。地域の子育てに関する拠点として保護者や地域の人々から篤く信頼されている保育園です。



**【携帯電話のホームページアドレス】** <http://yoshitake-h.jp/yoshitake/j/>

**【HPアドレス】** <http://yoshitake.bambino.cc/>

**1. マイ保育園の出発点****虐待を1人も起こさせない**

石川県では、平成17年10月に「マイ保育園登録事業」が創設されました。この事業は「1人も虐待を起こさせないぞ」という決意のもとに生まれたものです。小学校に入学する時に、教育委員会はすべての6歳児の状況を把握しています。しかし生まられてくる子どもとその親の状態については、すべて把握している所が無く、虐待が起こつてから初めて知るということがあります。それで、何とかしてすべての未就園児の家庭での子育てについて把握できないかと考えて、マイ保育園制度が生まれました。

**保育園を子育て支援の拠点にする**

保育園を身近な子育て支援の拠点にしよう、というこのマイ保育園の考え方には、それなりの理由があります。石川県には保育園が歩いていける距離にたくさんあるということ、また、保育園には子育てのノウハウがいっぱいあるということの二つです。

石川県の人口は117万人ですが、保育園の数は380ほどあります。それらの保育園には育児の専門家がおり、保育室や遊戯室、調理室があります。また、各種の遊具が揃っています。そして何より、多くの子どもがいます。

保育園で行われる子育て支援の利点は、点の関わりを必要に応じて線の関わり、面の関わりに変

えていくことができるということです。子育て中の保護者にとって、子育ての専門性で溢れた場所が近くにあり、その中に自分の居場所がいつも確保されていることは、深い安心感に包まれます。

## 2. マイ保育園の内容

### 登録するということ

マイ保育園の大きな特徴の一つは「登録する」ということにあります。妊娠すると母子健康手帳をもらいますが、この手帳と一緒に「マイ保育園登録申請書」が配布され、希望の保育園に登録をしてもらいます。登録した人は、「かかりつけの保育園」として、妊娠中からの育児相談やおむつ交換、沐浴、授乳などの育児体験を受けることができるようになります。出産後は、出生届提出の際に「一時保育利用券」が交付され、3歳未満児まで、半日の一時保育を無料で3回受けることができます。また、育児教室や親子交流の広場に参加して子育ての不安感を軽減したり、育児に対して自信を育んでいくことができます。

しかし、マイ保育園を立ち上げる時、多くの市町では「うちでは子育て支援はすでにやっとるよ。今更ネーミングを変えただけのものに取り組む必要はない」と、参加に消極的でした。妊娠中からのメニューを持っているところもあり、確かに見た目には同じような事業に映ります。しかし、マイ保育園には明らかに異なる特徴があります。

お母さん方をホワイト、グレー、ブラックに色分けして説明してみます。ホワイトのお母さんというのは、子育てに特に何の悩みも無く、子育てを楽しんでいけるタイプです。そして「あそこにこんな子育てルームができた。お友達を誘って行ってみよう」「今日は、あそこの広場、人形劇が来るから行って遊んでこよう」というように施設

を最大に利用し、受けられるサービスを存分に受けているお母さんのことです。

グレーのお母さんは、家にこもりがちの人たちです。しかし、マイ保育園登録をして保育園と繋がり、自分の居場所が保育園の中にできたため、保育園の敷居が低くなり「ちょっと行ってみようかな」と思えるようになります。

しかしどんなに手を打っても「来ない」お母さんがいます。マイ保育園登録をしないお母さん達です。このお母さんに本当は来て欲しいのです。ところがマイ保育園は登録制ですので、コンピューター処理によって、どこにも登録をしていないこのブラックの人たちを発見することができます。このブラックのグループは、虐待を起こす可能性の高い人たちが多いのです。この人たちが、マイ保育園登録制度により浮き彫りになってきます。

このブラックのお母さんを見つけることができる点が、マイ保育園が他のどの子育て支援とも違う特徴の一つです。マイ保育園登録はすべての子育て家庭の支援を可能にするのです。

### 子育て支援コーディネーター

マイ保育園では子育て支援コーディネーターを配置して、子育て支援プランを作成します。これまで子育て支援は、お母さんの育児不安解消やリフレッシュが主な目的でした。マイ保育園の子育てプランは、育児不安がないように見える、ホワイトのお母さんも対象にしています。このようなお母さんであっても、子どもの健やかな育ちのためにには、0歳児といえども1週間に1回ぐらいは母親以外の多様な人たちと交わるべきだ、という考えにもとづいています。

このように、子育て支援の目的にお母さんの育児不安解消に加えて、子どもの健やかな発育支援

を入れたことが二つ目の特徴です。プランに基づいた計画的かつ継続的なサービス利用により、保育士や他の親などのおとなからの働きかけや、同年齢、異年齢の子どもとの遊びや交わりなどを通じて、子どもの人間関係づくりの能力や言葉などの発達、発育を促すことができます。

子どもの健やかな成長のためにもプランを作成するのですから、この子育て支援プランは保育士が立てるわけです。

子育て支援コーディネーターは、主任保育士クラスのベテラン保育士が研修を受け、県が認定証を交付してマイ保育園に配置しています。研修の内容は、保護者への対応の仕方、カウンセリングの技術というようなことを中心に行われ、1人1回5時間30分の研修を年間4回受けています。

#### 地域版ファミリーサポートセンター

マイ保育園の三つ目の特徴は、機能アップのために地域版ファミリーサポートセンターを各保育園で立ち上げていることです。

よしたけ保育園ではもともと「お助け隊」という保育園版のファミリーサポートセンターを立ち上げていました。そもそもその発端は、よしたけ保育園の学童保育にありました。よしたけ保育園は、まだ学童保育が全市に広まっていない時期から、学童保育を行ってきました。

保育園の卒園児で山間部の子どもがいました。学校に行くようになったのだけれど、その地域にはまだ学童保育がありませんでした。その子の家は共働き核家族で、誰も帰宅後にその子を迎えてくれる人がいない、また、よしたけ保育園の学童保育の場まで歩いて来る事ができる距離でもない、ということで大変困っていました。そこで、保育園の全保護者や地域の知人にお便りを出し、送迎に協力していただける人を募りました。その

結果3人が申し出て下さり、学校の終わる時刻とお迎えに行ける方の連絡調整を保育園がして、山間部の学校まで1年間迎えに行っていただきました。そのときのノウハウを基に保育園版ファミリーサポートセンターが形になってきました。

今は、この「お助け隊」は小松市のファミリーサポートセンターの中に統合されていますが、石川県がこれはとてもいい取り組みだということで、マイ保育園の事業に取り入れました。保育ママやボランティアを養成して保育園に配置し、マイ保育園が自主的に企画立案する子育て支援事業を積極的に展開しようというものです。具体的には、自宅での一時保育や園児の散歩時に安全のためにサポートしたり、絵本の読み聞かせなどの育儿サポートなどを行います。まさに保育園にとってのお助け隊です。

#### いしかわ子ども総合条例

石川県は平成19年3月22日に、いしかわ子ども総合条例を公布しました。この中で、マイ保育園の制度や子育てコーディネーターを載せています。

石川県にとってマイ保育園は単なる一つの事業ではなく、条例化された制度として行っていくことで、何年か後に予算等の理由により途中でやめてしまうという軽いものではありません。

この条例の裏付けにより、石川県においては、保育園が子育て支援の拠点として揺るぎないものとなっています。

#### マイ保育園の地域子育て支援拠点化推進

石川県では、マイ保育園の機能をさらに進化させるため、平成20年度から「子育て支援コーディネーター」の全県配置を進めるとともに、子育て

支援プランの策定により、マイ保育園の地域子育て支援の拠点としての確立が進められています。これは、地域における各種保育サービスの計画的かつ継続的な利用を行いながら、マイ保育園を拠点とした子育て支援ネットワークを構築しようというものです。具体的には、子育てサークル、集いの広場、児童館、図書館、小児科医、産婦人科医、保健所、ボランティアなどとマイ保育園のネットワークをつくるものです。

### 3. よしたけ保育園での取り組み

#### 子育て支援広場

よしたけ保育園では毎週月曜日から金曜日まで子育て支援広場を行っています。月曜日は自由広場、火曜日はマイ保育園広場、水木金曜日はたけのこ広場と名づけて行っています。子どもの運動量が違うので、マイ保育園広場は妊娠中から1歳半ぐらいまでの子どもも、それ以上の年齢の子どもはたけのこ広場に来てもらっています。

内容は、自由遊びに始まって、その日のテーマに沿った活動を行っています。月曜日は自由遊びのみです。テーマは、ベビーマッサージ、親子体操、手作りおもちゃ、離乳食の作り方、離乳食試食、感染症対策、事故防止、親子触れ合い遊び、赤ちゃんとの関わり方、手遊びなどです。手作りおも

ちは親子で作ります。栄養士による栄養指導も実施しています。育児相談は隨時行っています。

広場は、「楽しく自由に遊んで帰る」というだけではなく、大切な親子の関わりや、小さい時からの基本的なしつけのポイントについてお母さんに伝えていける場でなくてはならないと考えています。たとえば、おやつの時間は大切なしつけの時間、それもお母さんにも学んでいただきたい時間として位置づけています。おやつを配ると、何も教えられていない子はすぐにおやつに手を出します。この時、待たせる事を大切にします。待たせること、つまり自分のしたいことにブレーキをかけられることで子どもは自己調整力を身に付けていきます。「ほら、手をお膝にのせて、こうやって『いただきます』まで待つのですよ」と、子どもとお母さんにも伝えていきます。このような子育てのポイントを実際に伝えていくということが、子育て支援の中に盛り込まれてなかつたら、面白おかしく楽しんでもらうだけの広場で終わってしまいます。保育園で行われる広場はそうであってはいけないということをいつも意識しています。

#### 子育て支援プラン

平成18年10月から、石川県の20か所の保育園でモデル的に子育て支援プランを立て始めました。よしたけ保育園もこのモデル園の一つとしてプラ



広場の様子 1



広場の様子 2

ンの作成を行いました。

子育て支援プランは、①基本情報・アセスメントシート、②子育て支援プラン（長期用）、③子育て支援プラン（月間用）、④サービス調整会議、⑤支援経過記録で、1セットです。

アセスメントはプランを作成するために、保護者や子どもの状況を理解し、希望を引き出し、主訴から具体的に必要と考えられる支援を探すために、親子関係や経済状況、家族構成などを聞き出して作成していきます。聞きにくい点は信頼関係がでけてからにしています。長期用プランは、子育て支援プラン全体の方向性・中核を示すもので、保護者の意向や総合的な援助の方針に沿ったものとなるよう作成します。月間用プランには、月単位の支援やサービスの時間帯を記載し、具体的なサービス提供状況を分かりやすくします。

サービス調整会議では、利用者、子育て支援コーディネーター、関係するサービス事業者等が集まり、プランを確認し、協議し、調整するための会議です。支援経過記録は、子育て支援コーディネーターとして残す記録で、支援の状況や課題等、その都度記録し、必要なサービスを提供するために行ってています。



子育て支援プランをたてているところ

## 訪問活動

よしたけ保育園では行政施策に先立ち、園独自

に訪問用の車を購入し、訪問活動を開始していました。よしたけ保育園に登録をしたが一度も広場に来ない家庭や、最初の頃は来ていたけれど、だんだん来なくなった人の家に訪問しています。訪問して、久しぶりに話ができるほっとする方や、祖父母に面倒を見ていただいて仕事に出ていた人など、いろいろな状況があることが分かってきます。訪問できたときは、保護者の方と話をしながらプランを立て、興味をもって広場や各種保育サービスの施設に出かけていくことができるよう促します。

登録をしない人たちへの訪問は、今のところ実現していません。行政では、登録をしていない人を把握できていますが、私たちはそのリスト入手することができないからです。個人情報保護法により、「登録をしていない」という個人情報を保育園に漏らしてはいけないです。しかし、行政の家庭訪問員だけでは、とても追いつかない仕事です。地域の民生児童委員や主任児童委員、保育園の保育士、保健所など総力をあげて連携して訪問する必要があります。

国のメニューに4か月の赤ちゃん全戸訪問（こんにちは赤ちゃん）事業があります。これは保健センターのメニューですが、保健師が訪問するとき、子育て支援コーディネーターや保育士が一緒に行くなどして、何とか訪問できないか思案中です。

## 4. 評価と課題

### 評価

マイ保育園の広場の効果としては、①子育ての不安感や孤立感の解消、②育児書を参考にした思い込みによる子育てに気づく、③他の子の様子を見ることで子どもの発達段階を知る、④悩みを一

人で抱え込まず気軽に相談できるようになる、⑤子育ての情報を得る、⑥保護者同士が仲良くなり子育ての悩みや喜びを分かち合う、などがあげられます。これらの効果は、どの子育て広場でも得られるものですが、マイ保育園の広場では、妊娠中のお母さんも一緒に学び、体験し、安心感を得ていくことができます。

また、支援プランの効果としては、①保育士と母親の心の交流が生まれる、②母親にとり、保育所が身近な存在となる、③定期的な一時保育はリフレッシュに最適、④子どもの成長に沿った支援ができる、⑤特に子どもの食事に関する指導が充実、⑥保育所以外の保育サービスが分かる、などがあげられます。

訪問活動の効果としては、①広場ではなかなか相談しにくいことも気軽に相談できる、②広場に出てこられない人のストレス解消になる、③家庭

の環境から母親や子どもの状態を知ることができ、適切な援助ができる、などがあげられます。

### 課題

マイ保育園の今後の課題としては、①未登録の人のチェックが保育園ではできないので、チェックできるネットワーク等の体制作りが必要、②行政とのタイアップが必要、③専用スペース、専任保育士（子育て支援コーディネーター）が確保されていないとマイ保育園の効果が発揮できないので、すべての保育園での確保が必要、④カウンセリング力を向上させる研修は、新たに子育て支援コーディネーターを養成する場合のみならず、すでに受講してコーディネーターとして活動している保育士に対するフォローアップ研修もあわせて充実させが必要、などがあげられます。

### 橋本先生からのコメント

マイ保育園制度は、比較的保育所数が多いことなど、石川県の特性を生かし始まった取り組みです。平成19年には金沢市をのぞく18市町村で実施しています。本事業を実施している市町村では、妊娠時から3歳未満の子どもを育てる全ての子育て家庭が、身近な保育所に登録し「かかりつけ保育所」として利用することができます。また、実践報告にあるように、マイ保育園には、子育て支援コーディネーターが配置されています。保護者の育児負担の軽減、子どもの発達支援を目的として、サービスの利用促進や有効利用を支える役割を担っています。具体的には、子育て支援プランを保護者と共に作成しています。

よしたけ保育園は、マイ保育園に先駆的、積極的に取り組み、その実績が蓄積されつつあります。プラン作成の評価としては、要約すれば、保育士や保育所が身近になった、リフレッシュにつながる、子どもの成長に沿った支援が可能になる、保育所以外のサービスを知ることができたなどがあげられています。保育士と保護者の間にプランという具体的な媒体を置くことで、サービス利用や支援の目的が明確になる、必要なものが双方で具体的に把握できるメリットがあると考えられます。課題としては、予算を含む人員配置や事業の継続を支える制度の整備、コーディネーターの研修の充実があげられています。

保育所保育指針では、保育士は保育を基盤とする保護者支援を専門的に行う業務と位置づけています。保育士がコーディネーターの役割を担うには、他の専門技術の習得が必要です。業務内容的には、ソーシャルワークの知識や技術がより有用であると考えられます。また事業実施にあたっては、子育て支援プラン作成の意義を十分に理解することが必要です。子育て支援プランでは、保護者自身が自分の子どものために地域の多様な資源をコーディネートすることを支えるという視点が重要です。

# 双葉保育園（広島県 北広島町）

## 1. テーマ

地域の人と共に育つ環境教育  
～オオサンショウウオとのかかわりを通して～

## 2. 保育園名

双葉保育園、豊平子育て支援センター

## 3. 執筆者

双葉保育園園長 朝枝 喜代香

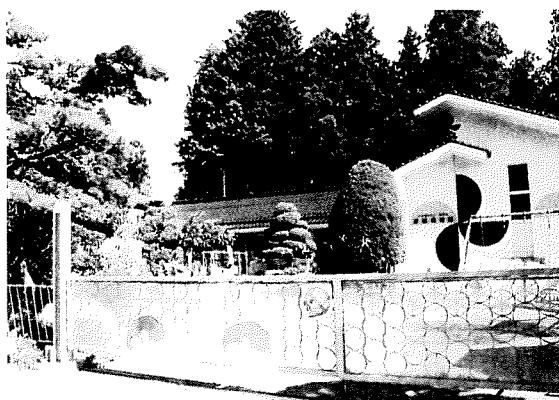
## 4. 園紹介

【所在地】 広島県山県郡北広島町志路原471

【定 員】 20名（現員25名）。乳児保育、延長保育、一時保育、地域子育て支援センターなどを実施。

【沿革】 北広島町は、豊平町、千代田町、大朝町、芸北町の4町が合併して、2005年2月にできた町です。広島県の北部、山陽と山陰の分水嶺に位置し、少子高齢化・過疎化が進んでいます。平成19年の年間出生数は、新町全体では134人ですが、旧町では20人に足りません。

【URL】 <http://www.yamanami-net.jp/futaba/>



## 1. 本園の目指す環境教育目標

オオサンショウウオが住む美しい自然、次世代を担う子どもたち、語り継がれる伝統文化。私たちはこの3つの宝物を慈しみ、守り育てつけます。

本園ではこのような山村の過疎地特有の問題を踏まえ、次の4つの視点を大切にした保育に心がけています。

①過疎地の人的、物的、社会的環境等から、子どもの生理的・身体的・精神的・心理的・知的な面の発達が遅れているところや、進んでいるところを明らかにし、保育に生かす。

②恵まれた自然環境を保育に生かし、ネイチャーゲームなどを取り入れ、めざす目標にふさわしい自然体験ができるだけ多くさせる。

③保育園および保育士全員が自己評価・自己点検

をしっかりと行い、より良い保育を実現するための課題と課題解決の方策を考える。

④郷土愛を育むために、子ども自身が郷土の一員であることを自覚するだけでなく、地域の人々にも理解してもらう。地域で皆が共に暮らすことの自覚と感謝の気持ちは、共同体意識を高め、郷土への誇りや郷土を愛する心を培う。さまざまな伝承的行事や、文化祭の作品作りなど、子どもが親や地域住民と一緒にやって行う実際的な共同作業を通じてこれを育む。

## 2. 豊平子育て支援センター設置と事業内容・事業方法

### 設置の動機

少子高齢化が進む中、「子育てを親子だけの問

題としてとらえるのではなく、『子育て支えあいの輪』を広げ、地域全体の課題としたい」。このような思いが、日々つのっていました。保育園を地域に開放することで、乳幼児からお年寄りまで、「人としての生き方を学ぶ場」となり、子どもを育てることの悩み、成長の喜びなど、ともに味わうことのできるまちづくりに貢献することを願っていたのです。

#### 事業内容・事業方法

旧豊平町には私立保育園が3つあります。基本は、双葉保育園に設置されたセンターでの事業展開ですが、町内全体への貢献も考え、他の2園にセンター職員が出向き、2園の園庭開放も兼ね、月1回の出張事業を行っています。子育て中の親子や孫を預かっているおばあちゃんたちが利用して、少しずつ子育ての輪が広がり、双子ちゃんや三つ子ちゃんのサークルもできました。近隣町村や広島市より、マイカーでドライブ気分で利用する人もあります。

「ふたば交流館」では高齢者や地域の人たちの特技を生かして竹トンボや草餅を作り、保育園児、子育て支援センター利用者、児童クラブの児童が、大人と一緒に交流しています。この交流館の活動の中から育ったのが、「サンちゃんと友だちになる会」です。これは、豊平にいる天然記念物オオサンショウウオを地域全体で守ることを通じて、子どもの成長をともに支援していくというものです。親しみと愛称をこめ、オオサンショウウオのことをサンちゃんと子どもたちは呼んでいます。

この活動を通じて、「自然の中は宝物がいっぱい！」ということに気付かされ、「草や木や鳥や魚も、みんなのちを大切にして生きている」「私たちのいのちも、他のいのちもともに大切に

しうね」と、ともに生きる世界に気付き、この活動が盛り上がっていました。

#### 3. 「サンちゃんと友だちになる会」の活動

##### 設立の契機

「生きた化石」とも呼ばれるオオサンショウウオですが、実際は、ヌルヌル肌に大きな口で、気持ちが悪いと思われがちです。その生態については、専門家の間でも解明されていない点が多くかったようで、安佐動物公園の職員が、30年余り調査を続けておられました。「オオサンショウウオが産卵する様子などが、お寺の庭の川辺で見られ、専門家から見ても貴重な地域である」と言われ、日頃からこのことを園児や保護者、地域の子どもたちに伝えていました。



保育園では、「近くの川は、サンちゃんが育つところだから『川を汚さないようにしよう』」という活動を続けていました。川遊びのとき、サンちゃんに出会ったり、お散歩しながら川辺のサンちゃんに語りかけたり、ビニールの袋やBINや缶などを拾って周囲をきれいにするなど、日常の保育活動のなかでもオオサンショウウオに親しむようしていました。ネイチャーゲームの「古老的語らい」でおじいさんたちが、得意になって、子どものころの話をしてくださいました。交流館では、オオサンショウウオをメインテーマ

として様々な学習会・文化交流・地域交流を日常的に展開しています。

### 活動の展開

生態の研究については、生殖環境保護のため非公開で研究が続けられていきましたが、地域でも環境を守ってもらいたいとの考え方から、平成15年7月、公開保護に切り替えられました。これを機に、安佐動物公園のオオサンショウウオ研究チームの研究内容を公開講座で学ぶこととし、「サンちゃんと友だちになる会」を3回開きました。これが、幼児や青少年、そして高齢者までしっかりと結びつくイベントとなり、オオサンショウウオと志路原川をみんなの宝として守っていくことになったのです。そのとき、<sup>いわせ</sup>是（水をせきとめる小さなダム）が登れなくてずり落ち、何回も挑戦しているサンちゃんの苦しみを聞かせていただきました。このお話は、関係者の心を打ちました。

このような経過を経て、「サンちゃんと友だちになる会」は、保育園中心の活動から地域の活動へと展開していくことになりました。初めはあまり乗り気でなかった地域の人も、「自分の住む町は、オオサンショウウオの人工巣穴があり、そこで産卵、孵化が毎年あるところ。世界中、どこにも無い宝の地である」ことが解り、みんなで守ることになっていったのです。

魚道（サンショウウオがのぼることのできるようになされた通り道）ができる完成式には、サンちゃんの着ぐるみを着た動物園の職員が「どれどれ…これなら大丈夫、仲間に言っておくからね」といって、サンちゃんの気持ちを表現して下さいました。オオサンショウウオが生息していくためには「きれいな水」と産卵が出来る「環境」、人間とオオサンショウウオが共存していくためには「まず知ること」そして「譲ること」、とのお話を

聞きました。そこで、地域の人たちと「三チャンS村」を作ることとなりました。「三チャンS」とは山、太陽（sun）、サンちゃんの3つであり、その目標が表のように定められました。ここでは、保育園も村民となり、企画委員として参画しています。

表 「三チャンS村」の目標

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 人を知り、ふれあいを持つことのできるチャンス   |
| 2. 郷土の良さや自然環境を知るチャンス        |
| 3. 人と自然を生かし、活力ある郷土を創造するチャンス |

「サンちゃんと友だちになる会」では、島根県の東光保育園の親子、広島市のジュニアオーケストラの子どもたちなどとの交流も進めています。このような広がりが、「人を育てるのは人」という気持ちをますます高めることとなり、心の通い合う子育ての輪に広がっています。

### 4. 広がる活動と今後

「三ちゃんS村」の活動はマスコミの関心も集め、NHKで1年間を追ったドキュメント番組が企画されたり、イギリスのBBC放送からの取材もありました。河川改修の際、オオサンショウウオの這い上がる魚道の必要性に関する意見具申の町への提出、広島市在住の外国人の方を迎えてのホームステイ、他地域の保育園や安佐動物公園との交流など、地域の活性化に大きく貢献することができつつあります。また園児から青少年、お年寄りまで、世代を越えた活動は小学校でも取り上げられ、学校を挙げて協力していただくことができたのも大きな収穫です。

これまで、幼い子どもから高齢者まで、心をひとつにして、サンちゃんが困らないよう川をきれいにし、美しい自然がこれからもずっと汚れないで、サンちゃんが安心して居てくれるよう地域の環境保全活動に貢献してきました。ここでのつながりが、支援センターの活動も豊かにしています。

保育園の近くの空き家を「ルンルン茶屋」として、子育て支援センターが運営しています。そこからは、「ちょっと寄って話しましょうや」「まめでやつとりんさるかいの～（「元気でお過ごですか」の意味）」などの声が聞こえてきます。通りがかりに立ち寄って「かわいいね！」と、抱っこして下さる一人暮らしの高齢者の方もいらっしゃいます。子育て中の親子は、手作りおやつをいただきながらホッとする場となっています。

ルンルン茶屋の周りの草花は、近所のおばちゃんたちが植えて下さったものです。旬の野菜を持ってきて、「こうして食べたら…」とアドバイスがあったり、和やかな笑い声の響く憩いのひとと

きです。

山があり、川があり、夜はホタル、星もとつてきれい。こんな里には本物の人間が住んでいます。子育てを「みんなで育て、みんなで考え、みんなで解決していく」地域となりつつあります。一人で悩まないで、サンちゃんの暮らす里でゆっくり楽しみたいものです。

未来を担う子どもたち。語り継がれる伝統文化。オオサンショウウオが住む美しい自然。私たちは、今後とも、3つの宝物を慈しみ、守り、育て続けます。



### 山縣先生からのコメント

保育所の利用者の多くは、都市部に存在します。待機児は都市部にしか存在しないといつても過言ではありません。しかしながら、保育所の一定数は過疎地に存在しており、そこにも親子が生活しているという状況を忘れてはなりません。

過疎地には、子どもが少ないため、身近にかつ日常的に子どもの育つ姿や親子のかかわりを見るという経験は少なくなります。また、子どもは地域社会の伝行事の継承や、地域住民の活力としても機能することが考えられます。

高齢化の進行の中で、地域力が低下している状況は容易に想像できます。このような地域においては、社会資源としての保育所は、単に地域子育て支援の拠点としてだけではなく、地域の社会的機能の拠点としても機能することが求められます。

双葉保育園が立地している地域（旧町）での年間出生数は、20人に足りません。そこに3つの保育所が事業を行っています。定員は小規模保育所の最低人数となっています。一時期、現員が20人を割り込む可能性もあったそうです。都市部の保育関係者からは想像もできないような経営状況にあるのです。

地域子育て支援センターは、双葉保育園のエリアだけでなく、他の2つの園でも出張型で展開しています。これは、制度創設当初、この事業が意図していた活動そのものです。このように、自園だけの活動ではなく、地域全体を視野に入れた活動が、子育て支援には求められます。また、オオサンショウウオの保護育成を通じた、地域の拠点化という視点も双葉保育園の活動を特徴付けるものとなっています。

平成20年度 北広島町子育てカレンダー 11月号

…事に書いていますか？…

\*※次回は、「平子育て支援センター」情報を掲載します。

24	月	振り返り休日		
25	火	英会話・園芸研究会(カギの定期会)	10:00~11:30	
		子供はさむこから「ド・ド・ド」		
26	水	大崩・園芸研究会(大崩保育所) 10:00~11:30 大崩・園芸研究会(大崩保育所) 10:00~11:30 (お弁当自由)	裏子も子供も「ひなたぼっこ」 (ひなたぼっこ)園芸研究会	ふれあい園芸(子供田子育て支 援センター) 11:30~15:00
27	木	春・マルソウランサルコン(マルコスラン) 10:00~12:00 (お弁当自由)	美心・マルコスラン	人間・心の健康づくり講習会 (子供田子育て支 援センター) 11:30~15:00
28	金	春予約割引割引(大崩保育センター) 10:00~11:30 (お弁当自由)	平成園子ぶんぐ(春・平成園子 社会会センター) 午後中 千代田公園ランチ 10:30~12:00 (春・平成園子ぶんぐ)	金谷内科医院 (子供田子育て支 援センター) 13:30~ 大崩・化粧品・各種公演 開催セミナー(9:30~ 11:30) 金谷内科医院 8:30~2:00
29	土			
30	日			
※子供田子育て支援センターでは、春予約割引(春・平成園子ぶんぐ)は春予約割引支援センターへお譲りください。 ※子供田子育て支援センターでは、春予約割引(春・平成園子ぶんぐ)は子供田子育て支援センターへお譲りください。				
＊北広島町地域子育て支援センターの二案内				
北広島町の子育て支援センターは、地域の子育て支援の基盤として、楽しく、活発な活動を展開しています。 ぜひ、お気軽に来てください。また各支援センターでは、全令和中の定期開催会での託児保育等、協働で支援を行っています。				
支援センター名				
子供田子育て支援センター 北広島町役場内 北広島町小川町 279				
・園芸部 ・ふれあい相談 ・乳児・赤ちゃん ・子育てビデオレンタル ・サークル活動(マルコスラン)				
大崩子育て支援センター 大崩保育所内 北広島町大崩 4650				
・園芸部 ・お芋掘り(毎月 1 回) ・お芋のふれあい会(毎月 3 回) ・乳児・赤ちゃん ・子育てビデオレンタル ・サークル活動(マルコスラン)				
千代田子育て支援センター 千代田公園内 北広島町千代田 104				
・す・やかうら(定期開催) ・速(じゆく)な会(月 1 回) ・子育て相談(月 1 回) ・サークル活動(マルコスラン)				
豊田子育て支援センター 豊田保育所内 北広島町豊田 171				
・「そこそこ」ルーム ・子育て相談(月 1 回) ・子育て情報会(毎月 1 回) ・マスクボーラークラブ ・子育てレンタル(定期開催) ・育児相談 ・お楽しみ会(月 1 回) ・なかよし会(家庭教育) ・サークル活動(マルコスラン)				
※これらは、子育て支援センターの担当者で「ひなたぼっこ」に参加しているので、あらかじめ、「ひなたぼっこ」マスクボーラークラブは子供田子育て支援センターへお譲りください。				

山県郡子育て支援センター活動案内



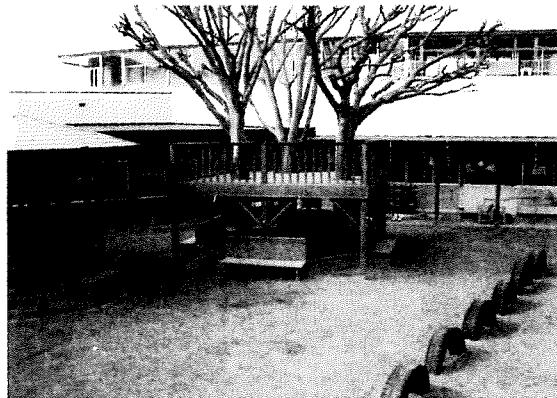
「いつでも、どこでも、飛び込んでいいける」子育て支援センターとして、毎月山県郡内の活動予定をお知らせします。毎月山県郡内の活動予定を把握して、親子で楽しんでください。

平成20年度 NO. 8 電子音楽で支援センターへ—連絡会

平成20年11月号

## 1. テーマ

子育ては親の生き方・暮らし方  
一地域ぐるみで子育て支援をする  
山東子育て応援団活動をとおして一



## 2. 保育園名

社会福祉法人喜育園 山東保育園

## 3. 執筆者

園長 村上 千幸

## 4. 園紹介

**【所在地】** 熊本県鹿本郡植木町有泉829

**【特 色】** 子ども達の姿は季節によっても変わり、日によっても変わります。このように日々変化しながら輝く一人ひとりを大切にしていきたいと考えています。そして、一人ひとりが放つ様々な光が合わさって、天空を翔る「虹の道」となって未来へ続いていきます。そのような山東保育園の「虹の保育」をみんなの力で作り上げていきたいと願っています。

山東保育園では子どもはもちろん、保護者も保育者もみんなが入園して育つと考えています。保育園は子どもの育ちを保障することができる「子どもの園」であるとともに、親にとっても子どもの育ちに関わる中で「親」として育っていく場、「一生かかって親になる」場であると考えています。保育者にとっても、保育の現場を通じて「一生かかって保育者になる」場となるようにしたいと思います。

**【U R L】** <http://www.santo.ed.jp>

**【m a i l】** hoikuen@santo.ed.jp

## 1. 地域の子育て支援等に取り組むようになった

### 動機、園の考え方など

子育て支援は、「子どもが育つ」事ができる様に、地域の人と地域の文化の中で繋がりを持ちながら「親が子どもを育てる親となる」事ができる様にしていくことです。同時に子どもを鍵（かすがい）として地域づくりをしていくことにもつながっています。

## 子ども時代を子どもらしく生きる

ドイツの教育家フレーベルは「子どもは、5歳までに、その生涯に学ぶべきことを学び終える」と言いました。人生にとって必要な生きる力となる基礎・基本を、体験・経験の中から学ぶことができることが肝要です。

しかし、現状は、生きる力となる基礎・基本を体験・経験の中から学ぶ場としての「暮らしの時間」そのものがなくなったりといわれて久しくなり

ます。育てられるべき対象としての子どもではなく、大人たちの家庭や地域の中にも「暮らし」を取り戻すこと、「生活者」としての子どもの暮らしを取り戻すことが必要であると考えます。

### 子育ては親の生き方・暮らし方 一不安の解消よりも自信の回復を

保護者向けに発信されるメッセージに次のようなものがあります。

「もっと甘えていいんですよ」

「1人で悩まないで」

「完璧な親なんていらないんだから」などなど…。

確かに保護者の気持ちの不安を軽減することは必要ですし、一時的に不安を解消するためには効果的であるかもしれません。しかし、一時的な効果はあっても子育ての状況を変える根本的な支援にはなっていないのではないかでしょうか。ある一人の不安が解消されても、また次の人がやはり同じように悩み、

「もっと甘えていいんだよ」

「1人で悩まないで良いんだよ」

「完璧な親なんていらないんだから」

と声を掛けられる必要があるというのが現状です。

子育てに対する不安というものが特別にあるものではなく、暮らしの不安との連続線上にあるものなのではないでしょうか。暮らしの体験や様々な人との関わりの経験をすることにより、暮らしの自信を取りもどし、大人としての自信、親としての自信を培うことができるようになると 생각ています。「子育ては親の生き方・暮らし方」であり、大人の親としての生き方、暮らし方そのものが問われているのです。

### 子どもはお荷物それとも宝? 一子どもを社会で育てる

「社会で子育て」ということが呼ばれています。

しかし、子育てに対する社会的責任は十分に果たされているとはいえない。子育ての第一義的責任は家族にあるとされていますが、自己責任の原則により、子育ての負担が家族に押し付けられているというのが現状なのです。「社会で育てる」という場合の「社会で」には、支援する主体として社会が期待され、みんなで子育てをしていくという意味があります。しかし、あまりにも当たり前の一般論すぎて、「誰もが責任を取る」という美辞のもとに、誰も責任を取らない、ということになってしまっています。

「社会で」の「で」は3つの意味を持ちます。

「IN」：社会が支援のための制度や財政などを含めてその責任の一端を担うということを明確にするという意味です。

「WITH」：人は人の中で人間になります。人は多くの親しい他人に関わりながら育つのですが、支援のために関わりが必要なのではなく、関わりの存在そのものが必要なのです。

「BY」：気候、風土、風習、文化など社会の暮らしのものが子どもの育ちのための資源となります。暮らしの体験・経験をすることが育つということであるという認識をしなおす必要があります。以上のように、子どもを社会で育てるということは、社会の責任のなかで、地域社会の人と関わりあいながら、地域社会の暮らしのあり方を育てるという意味をもつものだと考えます。



## 子どもを地域の鍵（かすがい）に 一新しい地域づくりへ

最近、子育て支援をしている人や組織から「無力感を感じている」という声が時々聞こえてくるようになりました。子育てを取り巻く事態がますます深刻化していくのに対して、子育ての状況が一向に好転しないからと考えられます。同じように私たちを取り巻く生活の中で様々な不安が発生し、それも次から次へ、さらにその他の不安へと「不安の連鎖」となっています。

人と人がお互いに支え合うことができ、「つながり」「つながっている」と感じることができることは、生活の質を高めるために最も重要な要素です。子どもの育ちだけではなく、高齢社会の問題やその他の様々な地域課題の解決や幸福感を感じながら生活をしていくためには、地域のつながりそのものが必要です。そこで、子どもを鍵（かすがい）として地域の関係性を取り戻すことができるのではないかと考えています。

## 2. 地域の子育て支援・特色のある保育活動等についての具体的な実践例

### 家族の食卓支援事業 一関わりを食べる食卓

子育て不安の多くは暮らし方に起因しており、特に食生活に深い関連があると考えています。食卓では、物事の処理感覚、価値判断、暮らしの価値観など人格の核となる部分が親から子へ伝えられています。最近、子ども達のコミュニケーション力が低くなったり、引きこもり、ニートといわれるような事象が問題となっています。食卓がやせ細ることにより、本来ならば暮らしや食卓で伝承されて形成されるべき人格形成に不全が起こり、他人とコミュニケーションをとる力が低下するのではないかと考えられます。

そこで、子育て支援の一環として、農作物の栽培や調理を体験することにより、家族の食卓が育つことができるようになることを目的として家族支援事業をしています。

山東地域にはたくさんの農地があります。しかし使われないで耕作を放棄されている田や畠もたくさんあります。山東子育て応援団では、遊休農地（約11,000m<sup>2</sup>）を使って、専業農家の方の力を借りながら大豆や小麦、そば、キビなどを栽培しています。

子育て中の若いお母さん達と一緒に収穫した野菜を調理したり、大豆からは、味噌、豆腐、納豆を作ったり、小麦からは小麦粉を引いてパンやだんご作りなどを行っています。

平成20年度は熊本県の「つながる事業」として「旬産旬消事業」を実施しています。子育て中の若い親子が旬を感じ、旬を体験して、旬を丸ごと味わうことができるようになることを目的とし、大豆、白菜、大根、里いも、じゃがいも、ホウレンソウ、人参など旬の食材を収穫して料理を行っています。生ごみをリサイクルして土づくりからの畠作りも行っています。

広場やサロンでは母親の居場所や仲間づくりの場を提供しています。共飲共食、共同作業は、食育の視点のみの効果だけではなく、人と人とのしっかりととしたつながりの形成という効果も発揮しています。

農林水産省の補助事業である教育ファーム事業では、地域の専業農家の力を借りながら、年間を



通した農業体験活動に取り組んでいます。菜の花を植えて菜種油を搾る菜の花プロジェクト事業では、子どもが搾りたての油を舐め、油そのものの味や香りを体験したり、そばの植え付けから、若芽の料理、花見、最後に収穫をし、そばがきやそば打ちまで体験しています。

#### メディアコントロール事業 ー家族でノーテレビ・ノーゲームにチャレンジ

子ども達のテレビやゲーム、携帯電話、インターネットなどのメディア接触が大きな問題となっています。メディア接触自体の問題とともに、生活リズムとメディア接触との関係も重要です。メディアとの関係は、子どもの発達との連関が大きいことを考えると、テレビやゲームなどのメディアの利用とコントロールの両方を視野に入れた対応を図る必要があると思います。ただし、子どもだけ、家族だけでの対応では困難な問題もあり、メディアについての講演会・学習会を開催して地域で理解をしていくとともに、各家庭で実践できるように地域全体で取り組むことが有効と思われます。

わが町では家族ごとに家族会議を行い、家族でチャレンジできるメニューを決めてもらっています。自分たちで決めたノーテレビやノーゲームなどのチャレンジメニューに取り組むという運動を、全町一斉に年に2回、一週間ずつ実施しています。平成20年からは、年2回のチャレンジウィークを実施するとともに、毎月15日を「肥後っ子の日」として、ノーテレビ・ノーゲームにチャレンジしています。

チャレンジファミリー事業は、平成14年に山東保育園で始まり、次の年には山東小学校校区に広がりました。平成16年度からはチャレンジファミリープロジェクト実行委員会が結成されるとともに、植木町の全部の保育園・幼稚園・小学校・中

学校の協力を得て実施することができるようになりました。平成18年にはチャレンジ標語を募集し「テレビ OFF 家族の会話が スイッチ ON」に決定するとともに、標語を印刷したのぼり旗を作成しました。

事業実施後のアンケートによると、平成19年度の参加延べ人数は4,000人を越えるファミリーチャレンジが実現して、自律的にコントロールすることができる子どもや家族が着実に増加していることが分かっています。



#### わんぱく遊び場事業 ー山東げんき村

子ども達が異年齢の集団で思いっきり外遊びの体験ができるように、木造二階建てのシンボルタワーがある冒険遊び場「山東げんき村」を開設しました。山東げんき村ではどんぐりを実生から育てるどんぐり山づくりが進んでいます。6月には田植え前の水田を借りて泥んこウイークをしています。山東保育園、学童保育所「植木子どもの城」、山東小学校の園児や児童が代わる代わる、全身泥んこになって遊んでいます。山東小学校とは、保・小連携活動の一環ともなっており、小学校1年生から6年生まで全学年がそれぞれに参加したり、保育園児と一緒に活動しています。

山東地区の中央に横山という名前的小高い丘状の山があります。地域の水資源を涵養するとともに、生活に必要な資源を供給してきた里山も、最

近は省みられることもなく手入れが行き届かないようになっています。そこで里山の利用と活用をすることにより里山の再生を図ろうと小学校・保育園のおやじの会が立ち上がり、人が入れるような里山公園になりました。そこでは木登り、綱渡り、ネンガラなど忍者道場の修行場となり、ツリークライミングを楽しむところとなりました。

夏休みの地域の学童を対象として海の学校・山の学校、伝承遊びなど冒険遊び事業を実施しています。



### 地域交流サロン「ばあちゃんち」—子育ては親の生き方・暮らし方

一人暮らしのおばあちゃんが実際に住んでいる築100年の古民家・納屋・畠を借りて、地域交流サロン「ばあちゃんち」を地域子育て支援センター事業として開設しています。地域の大きな家として、季節の行事や農作物の成長にそった活動が、月曜日から土・日曜日まで祭日を除き、毎日朝9時30分から3時まで実施されています。特に月・水曜日は高齢者の方との交流があります。水曜日には「やさい銀行」と名づけた菜園活動が野菜畠で繰り広げられます。木曜日は味噌作り、こんにゃく作り、漬物作りなど食に関した活動が行われています。金曜日は手芸など家事に関する活動があります。第3土曜日に開催される「くまちゃん市」では、近隣の農家の生産物や子育て中のお母さんたちのキャリアアップ支援をかねて、手作りのケーキ・

クッキー・ハーブ・手作りおもちゃなどが並びます。

第2水曜日はいきいきサロンの日です。地域の高齢者の方々が集まって楽しい時間を過ごされます。後半は小さい子ども達と一緒にになっての遊びを楽しめます。

これらの活動は、すべて地域の方々の協力支援に支えられて実施されています。ここが特に重要な点だと考えています。



### 子育て瓦版「あてぶれ」の発行

子育てするにあたっては、歩いて行ける、顔が見える、声が届くといった身近な地域情報が必要です。そこで、山東小学校校区内に限定した子育て関連・生活関連情報紙「あてぶれ」を年4回、1,500戸に全戸配布しています。情報というものは提供すればするほど新たな情報が集まってくるという特性があります。これらを通じて、地域の暮らしの情報や子育て関連情報を集積することができる子育て支援拠点となることを目指しています。

### 3. 実践内容及び独自事業と補助事業との関係 (行政機関との関係)

熊本県、植木町（健康福祉課、子育て支援課、産業振興課、学校教育課）、九州農政局などの行政とは意識して連携をもつようにしています。行

政からの支援を当てにすることはできませんが、良好な関係を維持していくことは必要だと考えます。事業によっては、地域福祉基金や学びあい支えあい事業など、地域活動のための財政支援も受けて事業を実施してきました。

平成20年度は地域福祉基金でチャレンジファミリープロジェクトの啓発グッズ作りと講演会を実施しました。熊本県の食の安全関係の「つながる事業」では旬産旬消プロジェクト事業を展開しています。また、農林水産省からは教育ファーム事業を委託されています。

山東子育て応援団は、山東地区の公民館、区長会、民生児童委員、食生活改善グループ、地域子育て支援センター、山東保育園保護者会、山東子育て支援委員会「かちやりばんこ」（熊本弁で、助け合いの意味）など、子どもだけではなく、高齢者、環境、食農活動など、様々な地域の生活課題を改善し、向上させていくために、「連携」よりもさらに踏み込んだ「チームワーク」による事業推進という意識の下に活動しています。

#### 4. 課題・評価

山東保育園の子育て支援活動の特徴は、代替的、直接的な子育て支援だけではなく、親の生き方、暮らし方を自覚することで、親としての自信を持

つ事ができるようにしていることです。そのために地域ぐるみで、親として育つ、家庭の食卓が育つ、さらには地域の文化を伝承するための活動をしています。

課題としては、活動に参加される人たちが主体的に関わり合い、参加してもらえるよう、参加者主体性、当事者性をさらに向上させていくことがあげられます。また、活動が活発になればなるほど活動を支援していただく方々の負担が多くなると考えられるので、支援のネットワークを広げる必要があります。また、女性の参加は多いものの、男性の参加が少ないのが現状です。どうしたら男性の参加が増え、支援する人が増えるようになるのかが課題となっています。

さらに、子ども達の未来を志向した地域の持つ課題を明らかにし、経済的に自立しながら持続可能な地域環境を作るべく、地域ぐるみで取り組むことができるような体制づくりが一番大きな課題です。



#### 橋本先生からのコメント

山東保育園では、暮らしの中にある子育てと子どもの育ちを捉え、事業を実施していることが「子育ては親の生き方・暮らし方」という表題と実践からうかがえます。また、子どもが育つ地域社会の暮らしに対する保育所の社会的責任を強く認識し、多様な活動に取り組んでいます。山東保育園のように、地域の中でダイナミックに暮らしを支える活動を行える、あるいは、その役割が保育所に求められるか否かは、地域性や保育所の体制によって異なります。ただ、保育所における子育て支援、保育指導においても、子どもの育ちが保護者、地域の暮らしの中にあるという視点を常に意識しておくことは非常に重要です。認識したら行動する。そして評価しつつつなげる。その重要性が伝わる実践です。